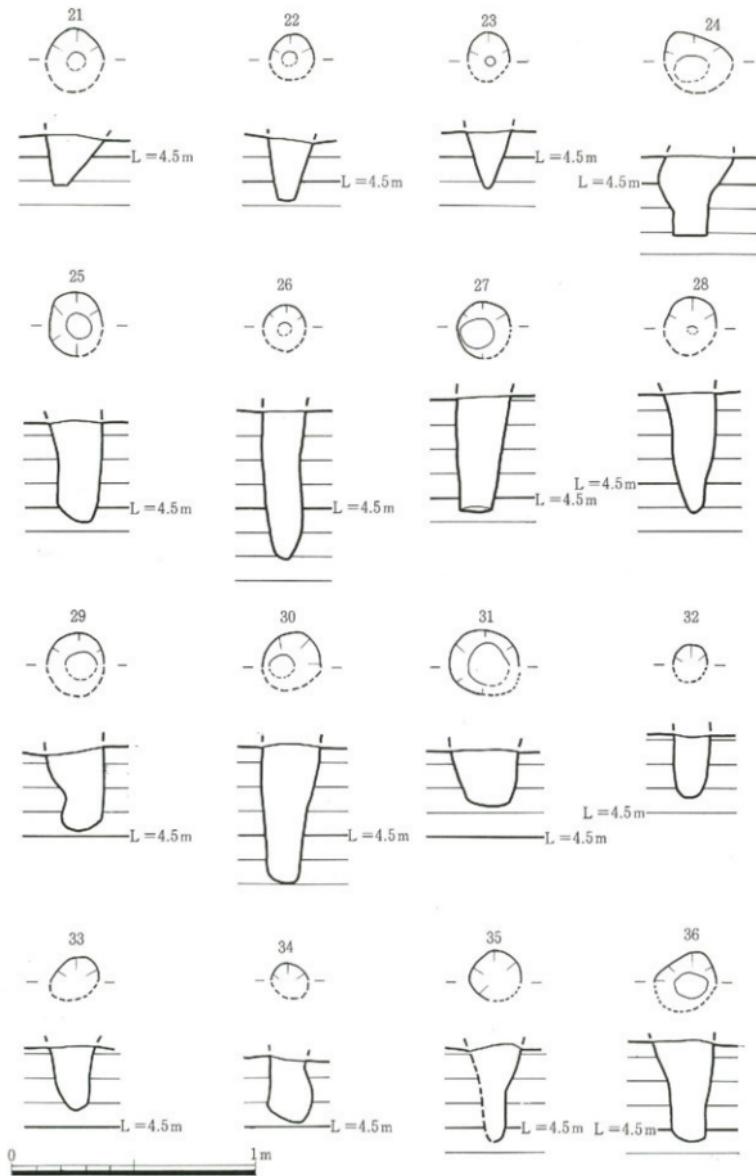
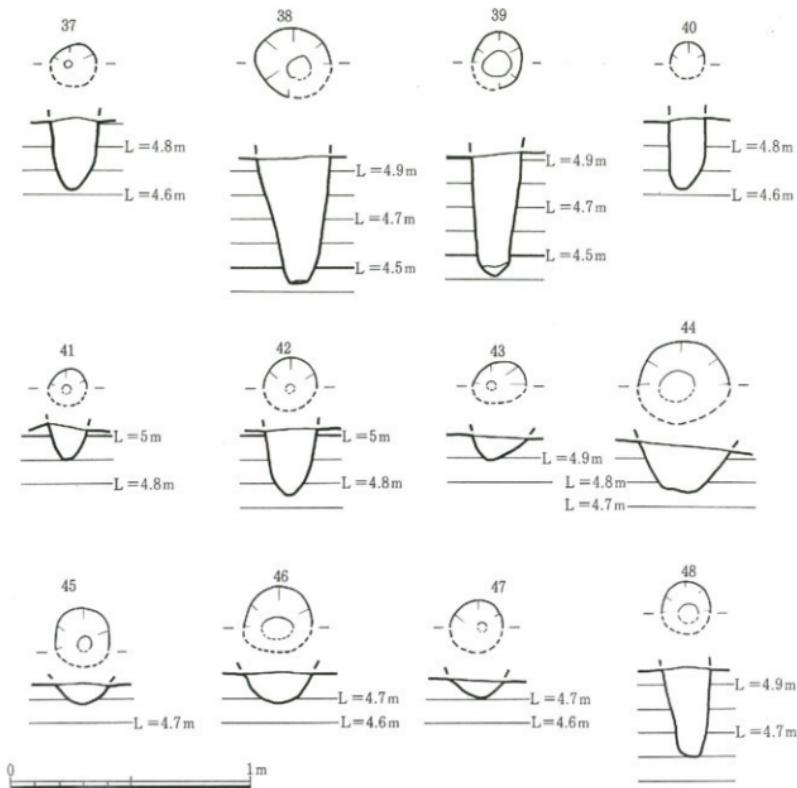


第39図 古墳時代柱穴平・断面図①(S=1/20).



第40図 古墳時代柱穴平・断面図②(S=1/20)



第41図 古墳時代柱穴平・断面図③(S=1/20)

のことから、古墳時代の竪穴式住居には、複数の種類の樹木が建築材として用いられていたことが看取され、住居の構造や工法に応じてその部分に適した種類の樹木を使っていた可能性ができた。しかし、現段階においては具体的に樹種と材の対応を指摘しうる情報を読み取ることができないため、あくまでも可能性の範囲としてとらえ、今後の住居の発掘調査における注意すべき視点の一つとして認識したい。

さて、敷頭遺跡、橋牟礼川遺跡ともに奈良～平安時代の竪穴式住居が検出されているが、その建築技術が古墳時代より伝統的に継承されているとの見解がある（中座1996）。中座氏は、橋牟礼川遺跡で検出された奈良～平安時代の竪穴式住居について、住居内部の壁際にもうけられた壁帶ピットから、壁立住居の可能性を指摘している。そして、同様に壁帶ピットをもつ古墳時代の竪穴式住居が存在することから、同時期より壁立住居が建築されていた可能性を示し、その点から技術基盤の継承を示唆している。

また、一方、壁立住居の存在は、壁帶ピットの評価によるものであり、十分に垂木、あるいは伏せ屋根を支える強度があったかどうかといった点も含め慎重な検討が必要との指摘もある。

今回検出された S A - 1 は主柱穴が 1 つの住居である。橋半礼川遺跡から円形プランではあるが、主柱穴が 1 つの奈良～平安時代の住居が検出されている。また、S A - 2 についても、仮に主柱穴が 3 基であった場合、同様の奈良～平安時代の住居が橋半礼川遺跡から検出されている。主柱穴の数のみをもって直ちにそれが建築技術の繼承の傍証とは言えないとも考えるが、これまでにも指摘されている菱形土器の脚台や突帯の繼承、貝塚の継続性など他の文化項目において古墳時代から続く伝統性を考慮すると技術基盤が繼承されいる可能性は十分に考えられる。

ところで、南部九州の古墳時代の住居には、S A - 1 のように住居の壁際に土壤を伴うものが多く見られるが、これまで検出された奈良～平安時代の住居には見られない。また、壁帶ピットを伴う住居とそれをもたない住居とがあり、橋半礼川遺跡の出土例では、検出した住居の数に限って言えば、壁帶ピットをもたない住居の方が多い。壁帶ピットを伴う住居の出現も問題と両時期の住居構造の細部にわたってそれぞれ詳細に検討し、比較していくことにより明確な解答に迫れるものと思われる。

(文責 渡部)

4. 弥生時代の遺構

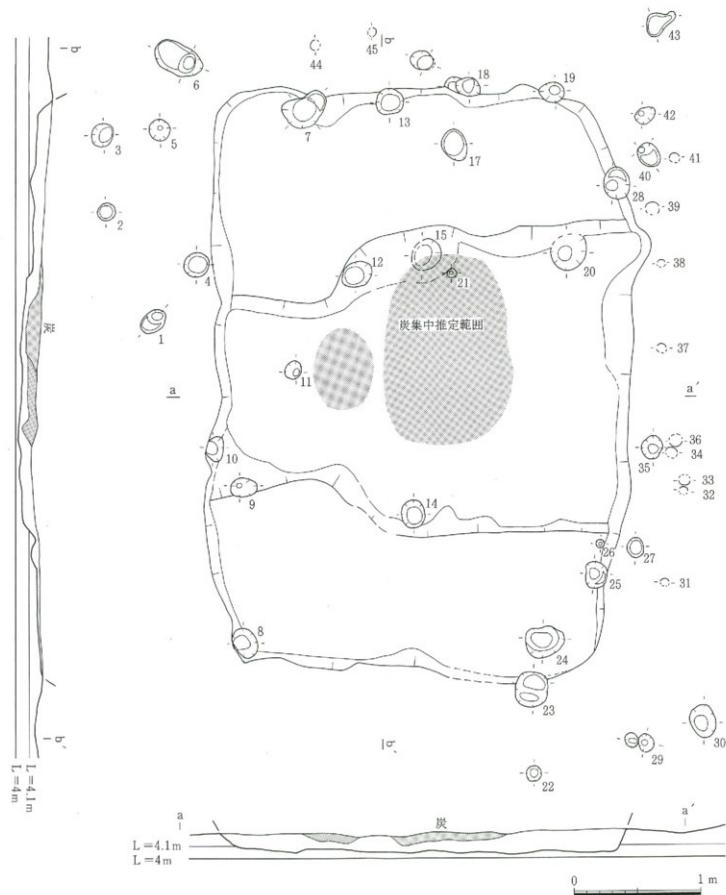
(1) 穫穴式住居 S A - 3

歎領遺跡において弥生時代に帰属する竪穴住居が 1 基検出された。検出位置は、調査区東南隅付近、層位は 12 層中である。住居は主軸を略東西に取る。平面形は隅丸長方形であり、北面の長辺に若干の張り出しを持つため、北西角は角度が緩くなる。竪穴掘り方法量は、長辺 4.56m、短辺 3.26m である。上面の削平のため、竪穴は床面より若干上がった部分からしか検出されておらず、残存する掘り方深さは最大で 20cm である。竪穴内部の両短辺にはベッド状遺構が見られる。ベッド状遺構の法量（幅）は、西面で最大 1.4m、最少 0.87m。東面で最大 1.62m、最少 1m である。ベッド状遺構はいずれも南面で幅が広がっており、結果的に L 字状と逆 L 字状を呈している。床面との高差は、西面で 11cm、東面で 7cm である。

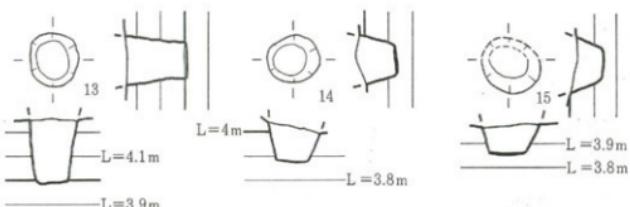
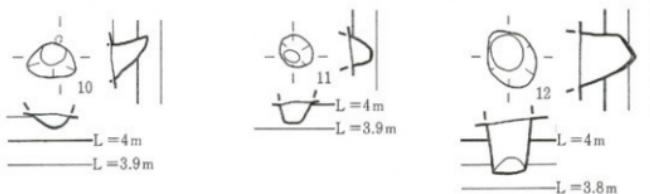
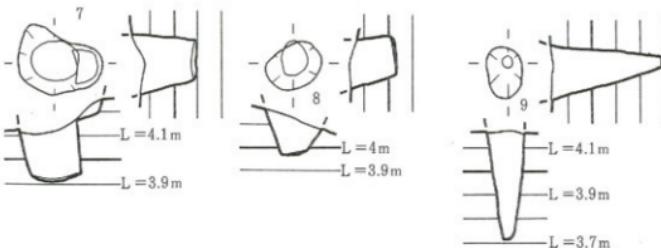
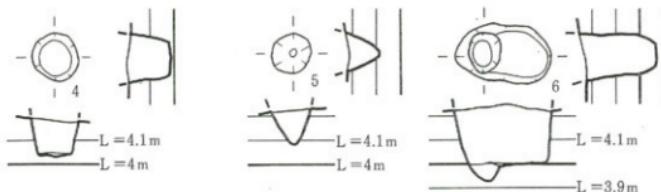
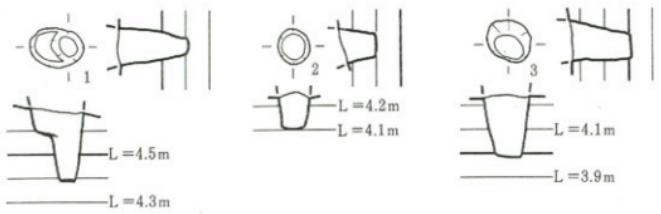
埋土中に、炭化物集中箇所が 2ヶ所見られる。床面中央やや西寄りに見られるものと、その南に隣接するものである。いずれも、床面に接してはいないため、炉との間違は薄いと考えられる。床面、ベッド状遺構面、掘り方上場付近及び掘り方外にピットが 43 基検出されている。そのうち、他の弥生住居の例から見て、主柱穴の可能性が高いと考えられるのは、P 14 と P 15 である。これらは長軸線に沿って配され、両短辺からそれぞれ 1.2m と 1.3m を計る位置にある。これは、ほぼ長軸の 4 分の 1 の長さに当たり、意識的に左右対称に配置したことが伺えるためである。しかしながらピットの深さは 12cm と 15cm と浅く、主柱を十分に支持できたか疑問が残る。また、最大径は 23cm、24cm と他のピット並みのサイズである。

さて、住居内外で検出された大小のピットに関して述べる。住居床面には、P 14・15 以外に、P 11・12・20・21 がある。P 11 は床面の幅が狭まった部分の中央付近に位置する。最大径 14cm、深さ 10cm である。P 12 は P 15 に隣接し最大径 27cm、深さ 23cm を計る。P 20 は、すり鉢状の深い土壤である。上面がやや削平されている。ベッド状遺構面には P 17・24 がある。P 17 は竪穴の長軸に寄った位置にあり、P 24 は竪穴南西隅付近にある。それぞれ、最大径 25cm・34cm、深さ 18cm・20cm を計る。P 14、P 15 を繋いだ延長上に P 16 がある。これは、最大径 18cm、深さ 40cm を計る。

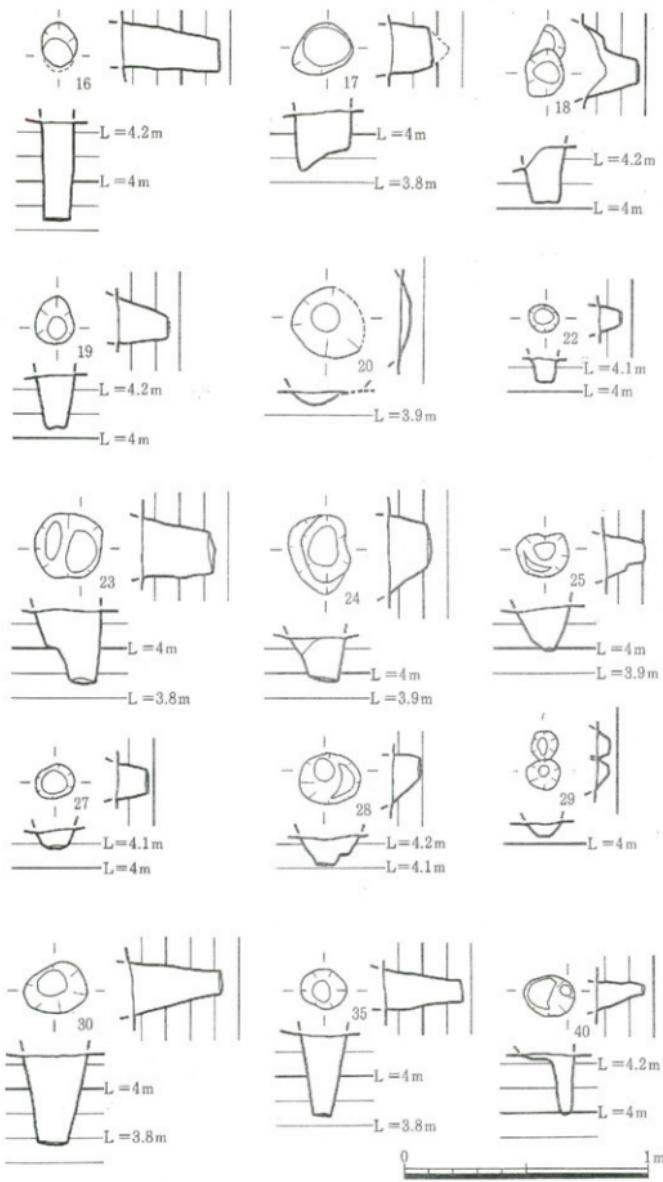
(文責 中摩)



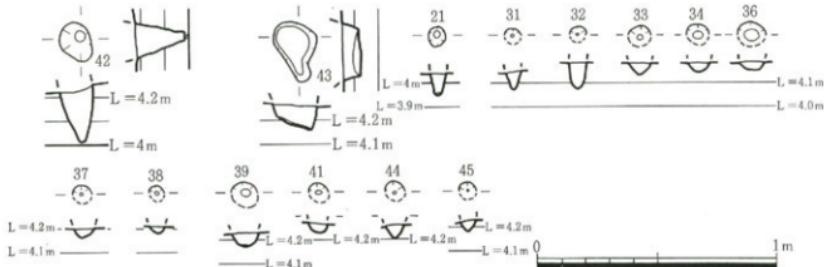
第42図 弥生時代竪穴式住居(SA-3)平・断面図(S=1/30)



第43図 S A - 3 柱穴平・断面図①($S=1/20$)



第44図 S A - 3 柱穴平・断面図②($S=1/20$)



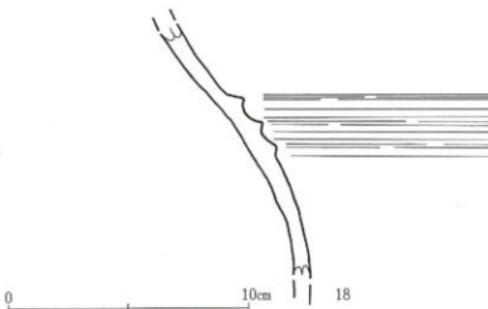
第45図 SA-3柱穴平・断面図③(S=1/20)

(2) SA-3出土遺物

SA-3の埋土からは、第46図18が出土している。

18は、壺形土器胴部突帯部で、3条の刻みを施さない突帯が貼付されている。弥生時代中期に該当する遺物であると考えられる。

SA-3については、住居形態や18の遺物などから、弥生時代中期頃の住居であると考えられる。



第46図 SA-3出土遺物実測図(S=1/2)

(3) 考察4-弥生時代竪穴式住居

・年代観について

敷額遺跡SA-3号住居（以下「SA-3」と表記）は、弥生時代包含層内の検出であり、弥生時代に帰属するものとみてよい。

SA-3号は形態的特徴から、鹿屋市王子遺跡におけるAタイプ（平面略方形の2穴竪穴住居）（立神；1985）の範疇に近い。例えば王子3号住居は、方形2穴主柱であり、ベッド状遺構2基を持つもので、SA-3と類似している。

一方、北部九州において方形2穴住居は、弥生時代中期後半には普及しており（宮本 1996）、弥生中期前半の事例もある。王子遺跡の事例も、弥生中期後半のものが大半であることから、この時期この種の住居が、南部九州に伝播した可能性が考えられる。

このように考えると、SA-3は、ベッド上遺構が「L」字形を呈しており、福岡県春日市赤井手遺跡事例に酷似していることもうなづける。

このような点から、敷額遺跡SA-3住居は、弥生時代中期後半以降の時期に収まると考えてよいと思う。

・構造に関して－堅穴外のピットの性格－

S A - 3 の堅穴の内外にはピット状造構が多数見られる。この内、P 14・15は主柱穴である。注目したいのは、上記 2 穴の延長線上に見られる P 16である。深さは37cmを計り、柱穴として十分機能するものと考えられる。ピットの下端レベルは、標高3.85cmであり。P 14の標高3.88m、P 15の標高3.87mとはほぼ一致している。このことは、P 16は主柱 2 本と同様の機能をもって設置された柱である可能性を示すのではないか。

弥生時代中期後半の大隅半島では、王子遺跡例のように棟持柱付掘立柱建物が見られる。同時に、鹿屋市前畠遺跡 3 号住居（新東；1990）などでは、この技術を堅穴住居に応用した可能性を示す事例がある。指宿市橋牟礼川遺跡ほかでは山之口式土器が一般的に出土しており、大隅半島と情報を共有することが想定されている。

こうした状況下で、棟持柱付掘立柱建物や棟持柱付堅穴住居の技術情報もまた伝播したのかもしれない。

ところで、P 16を棟持柱とすると、同様の柱がP 14側にも見られるはずであるが、これはない。何故片方のみにこれを設けたのだろうか。

P 16側の掘り方端部には、P 7・13・18・19があり、いずれも深さ20cmを越える。これらは、位置的には後世の造構の切り合いとは考えられず、梁間の垂支柱の可能性が考えられるだろう。支柱はP 16側にのみ設けられ、何らかの理由で上層構造を補強する必要性があったのかもしれない。棟持柱がP 16側のみにあることも同じ理由によるかもしれない。

ところで、P 14・15は深さが20cm弱と、柱支持力は十分だったのだろうか。これを解消する目的でP 16を設けた可能性も考慮する必要があると考える。

（文責 中摩）

（文献）

- 立神次郎、（1985）.『王子遺跡』.鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書、34.鹿児島：鹿児島県教育委員会
宮本長二郎、（1996）.『日本原始古代の住居建築』.東京：中央公論美術出版。
新東見一・雨宮瑞生・梅北浩一・小片丘彦・峰 和治・桜木晋一、（1990）.『前畠遺跡』.鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書、52.鹿児島：鹿児島県教育委員会



*図中Noは取り上げNo

第47図 第6層遺物出土状況図(S=1/100)

第2節 遺物について

1. 第6層出土遺物

散領遺跡における包含層出土遺物は、第6層（7世紀後半～西暦874年に生成した土層）中から出土したもの、第9層、第10層、第12層などから出土したものなどがある。

第6層は、7世紀後半に比定される開聞岳を給源とする火山噴出物「青コラ」上位に生成されたもので、貞觀16年3月4日（西暦874年3月15日）に比定される同じく開聞岳の噴出物「紫コラ」に被覆され、土壌の生成が中断されている。

従って、第6層に包含される遺物については、「紫コラ」の擾乱が行なわれていない限り、貞觀16年という下限年代が与えられる。

しかし、第6層には、その層の生成された期間に行なわれた、人為的ないしは自然的な擾乱によって第6層が生成された年代よりも以前に帰属する遺物も同時に含まれる。

従って、ここでは、第6層から出土したものの第6層以前の遺物と考えられるものについても触れる。

第6層から出土した遺物には、以下のものがある。

(1) 須恵器

① 須恵器蓋（つまみあり） 第48図19～24、第56図86

須恵器蓋のうち、つまみを有するものには、例えば、19のように、「宝珠形」を呈するもの（宝珠つまみ）、22のようにボタン状のつまみ（擬宝珠つまみ）を有するもの、そして、23のように「輪」形を呈するものなどがある。

これらの蓋のうち、22については、蓋の天井部内面に円滑面が形成され、調整痕跡が消失し、かつ、カーボンが付着していることから、転用硯と考えられる。

また、86については、同様に転用硯と考えられるが、「智」字の行書体と考えられる墨書が確認される（永山修一氏教示）。

② 須恵器蓋（つまみ有無不明） 第48図25～30、第49図31～40、第56図88

須恵器蓋の中で、つまみの有無が不明なもののうち、25～30、32、88については、口縁部外面がやや渋曲している。また、31、40のように口縁端部が直立するものがある。さらに、33～38のように、若干、口縁端部を折り返し、直立しているものがある。

39は、口縁端部が直立しないものがある。

これらのうち、特に40については、天井部内面に、繊維質が樹脂状の付着物とともに付着している。

88には墨書とも思われるものが認められるが判読できない。

③ 須恵器坏（高台あり） 第50図40～50、第52図59～63、第56図87

須恵器坏には、高台のあるものとないものがある。

高台の形態では、第50図41～50、第52図61のように低い高台を有するものと、第52図59、60、62、63のようにやや高い高台を有するものがある。

87はやや高い高台を有するもので、墨書が認められる。2字が書かれていたものと考えられるが、1字のみの判読が可能である。墨書には「編」の異体字とも考えられる（永山修一氏教示）。

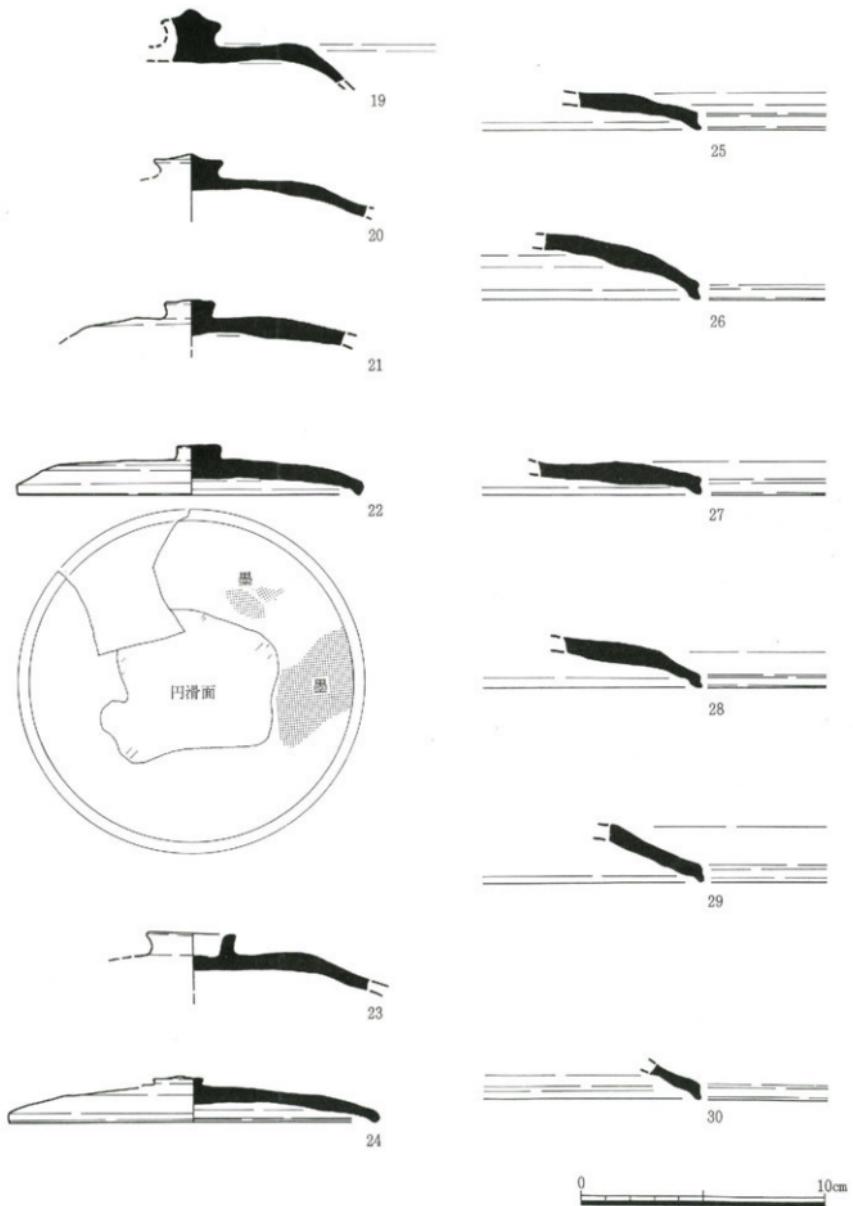
④ 須恵器坏（高台なし） 第53図64～75

高台を有さない須恵器坏には64～75がある。いずれも底部外面についてはヘラケズリの後にナデ調整を施す。

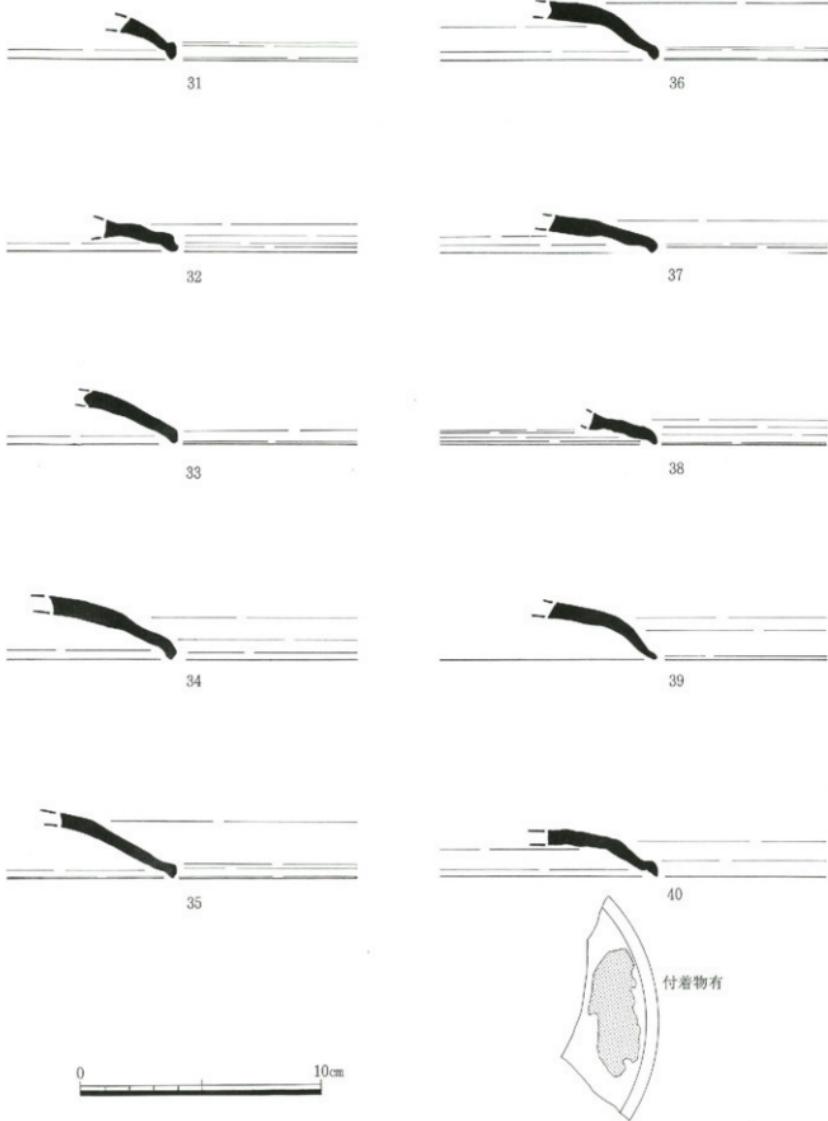
⑤ 須恵器坏（口縁部） 第51図51～58

須恵器坏口縁部である。高台の有無については不明である。58については、坏または皿の可能性がある。

⑥ 須恵器臺 第54図76、77、第55図79、80



第48図 第6層出土遺物実測図①($S=1/2$)



第49図 第6層出土遺物実測図②(S=1/2)

76は須恵器壺口縁部である。口縁部の立ち上がりはほとんどなく、口縁部外面は、回転横ナデにより凹線状となっている。体部内面は同心円タキが施され、体部外面は格子目タキが施される。極めて似ている類例としては、熊本県荒尾市の中野中窯跡などがある（松本・勢田 1980）。

77は口縁部を直立させ、いわゆる「二重口縁」と呼称する形態に近いものである。類例は鹿児島県金峰町山野原遺跡（金峰町教育委員会・宮下 1995）などにある。

79縁端部の直立がほとんど認められない。80部から口頭基部である。

⑦ 須恵器壺 第54図78, 第55図81～83

78は、肥後から薩摩・大隅にかけて散見される地域性を反映した壺形土器である。口縁部に立ち上がり部分を形成し、また、肩部の外面を回転ケズリを施し、棱をもって形成するものの体部である。類例では、熊本県荒尾市の北山浦A窯跡（松本・勢田 1980）などにその類例を求める。

81は底部である。高台内面見込部には「レ」字に似たヘラ書きが認められる。

82は壺口縁部であるが、口縁端部に「受け」部が形成されるような形態を呈する。本来蓋を伴う壺の可能性がある。83は壺口縁部である。

⑧ 須恵器鉢 第54図84, 85

84は体部から口縁部へ直線的に至る鉢の口縁部である。85は体部がゆるやかに湾曲し、口縁端部に至る鉢である。

(2) Ak (「青コラ」：7世紀後半の間間岳噴出物) 堆積以降の土師器と考えられる遺物

① 土師器蓋 第57図89～91

土師器蓋は、いずれもつまみを有するもので、特に、90は「宝珠」形を呈する。一方89, 91はボタン状のつまみを有する。

89～91の土師器蓋は、ロクロの使用による回転ヘラケズリなどの痕跡が見え、須恵器の成形技法や調整技法を踏襲している。特に90については、成形技法及び形態的観察ではむしろ須恵器蓋の製作技術が見られ、むしろ、土師質の須恵器と呼んでよいかもしれない。

一方、89の場合は、形態上も口縁端部は須恵器蓋とは異なり、直立部分などが形成されない。従って、89については、土師器の範疇と考えられる。

② 土師器坏 (高台あり) 第58図92～95

土師器坏のうち、高台を有するものに92～95がある。92については、高台内面見込部に「×」形のヘラ書き記号が認められる。

③ 土師器坏 (高台なし) 第59図96～101

土師器坏で高台を有さないものに96～101がある。特に96, 97について口径・器高ともに高台を有する土師器に比べやや小ぶりである。

97については、体部内面にカーボンが付着しており、また、繊維組織が一部観察された (fig49のa参照)。97に付着していた繊維は、縱横糸の対応は困難であったが、密の方向で7本/5mm, 疎の方向で5本/5mmを測り、かなり密度の濃い組織である。

④ 土師器壺 第60図102～111, 第61図112～121, 第62図122～126

土師器壺については、102～111などがある。そのほとんどは、口縁部が外反し、胴部内面ではヘラケズリを行うものである。特に口縁部資料の中では、口縁部内面の屈曲部分に明瞭に稜線が形成されるもの (116～118, 120, 122) がある。また、116～121は口唇部をヨコナデし、平坦に作り出すものである。

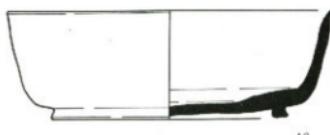
これら土師器壺については、横辛礼川遺跡も若干の出土があると同時に、古墳時代の「成川式土器」の製作伝統を踏襲する脚台つきの壺形土器との第6層中における共伴事例が知られる (下山 1993)。

(3) 古墳時代の土師器と考えられる遺物

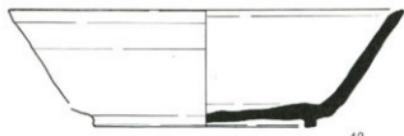
⑤ 壺形土器 (「成川式土器」) 第70図171, 172, 175, 176



41



46



42



47



43



48



44



49



45



50



第50図 第6層出土遺物実測図③($S=1/2$)

171は、「成川式土器」のうち「鉢貫式土器」（中村 1987による）と呼ばれる様式の範疇に含まれる壺形土器の口縁部である。172、175も壺形土器の口縁部である。176は壺形土器の肩部である。

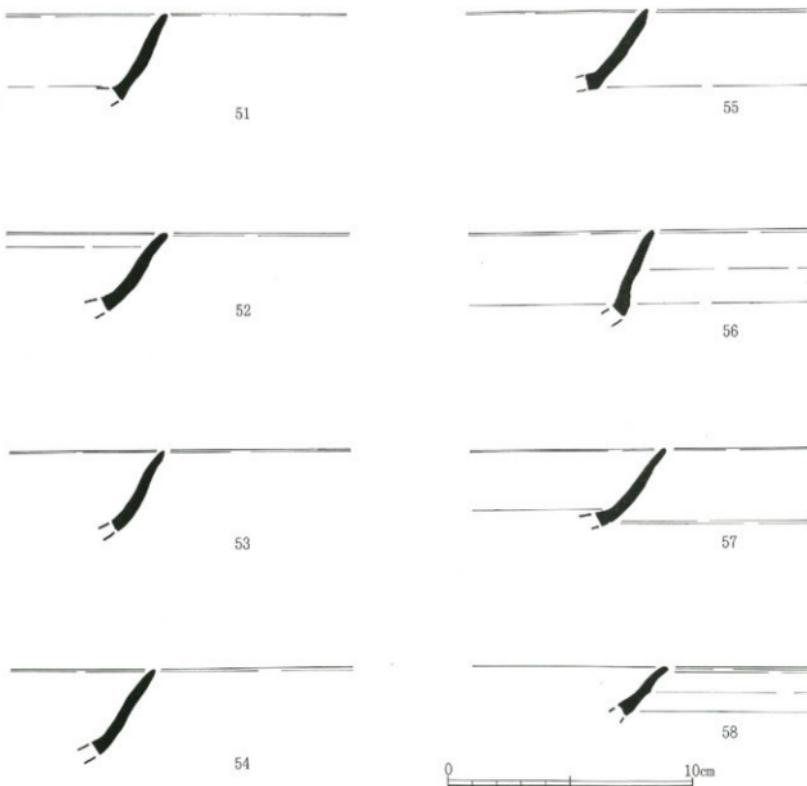
特に、「鉢貫式土器」は、「青コラ（Ak）」と呼ばれる間開唇を給源とする火山噴出物で被覆されていることで知られる様式であるが（下山 1992），この様式は、橋半礼川遺跡などの発掘調査成果から、第6層中でその様式が崩壊した可能性が指摘される。従って、これらの遺物が、本来、第6層（7世紀後半～西暦874年）に帰属したものかどうか判然としないものの、その可能性も棄却できない。

⑥ 高环形土器〔成川式土器〕 第72図186, 187

第6層の高环形土器では、186, 187がある。両者ともに脚部である。高环形土器は、「成川式土器」様式の中では、様式を構成する一器種であるが、第6層中ではその出土量は経験的に少なくなる傾向がある。これは、「成川式土器」様式の崩壊に起因すると考えられるが、これらの資料の帰属時期を含めてここで詳らかにはできない。

⑦ 鉢形土器〔成川式土器〕 第73図191

191は鉢形土器の底部から口縁部までの資料である。底部は脚台を有する。



第51図 第6層出土遺物実測図④(S=1/2)

⑧ ミニチュア土器 第73図192, 193

192, 193はミニチュア土器の底部である。いずれも壺形土器のミニチュア土器である。これら資料は古墳時代の「成川式土器」と考えられるが、第6層中では、脚台を有する壺形土器が存続することが、平成4年度の国指定史跡指宿橋半礼川遺跡の発掘調査で出土しているため、概に古墳時代に帰属する遺物とも決められない（下山 1995）。

(4) 弥生土器

① 壺形土器 第65図135, 136

第6層中の弥生土器については、層位学的年代観から、明らかに混入と考えられるものである。135, 136ともに、口縁部が断面「三角形」を呈するもので、口唇部には工具による刻みが施される。工具については、棒状具かヘラ状工具か判然としない。

② 壺形土器 第69図165

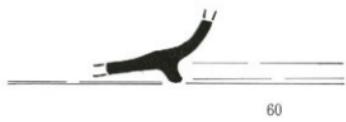
165は壺形土器の底部と考えられる。



59



62



60



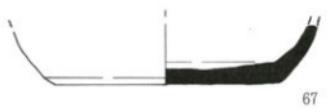
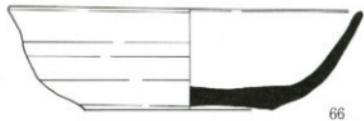
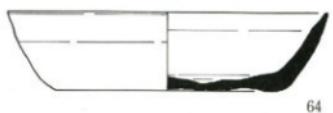
63



61



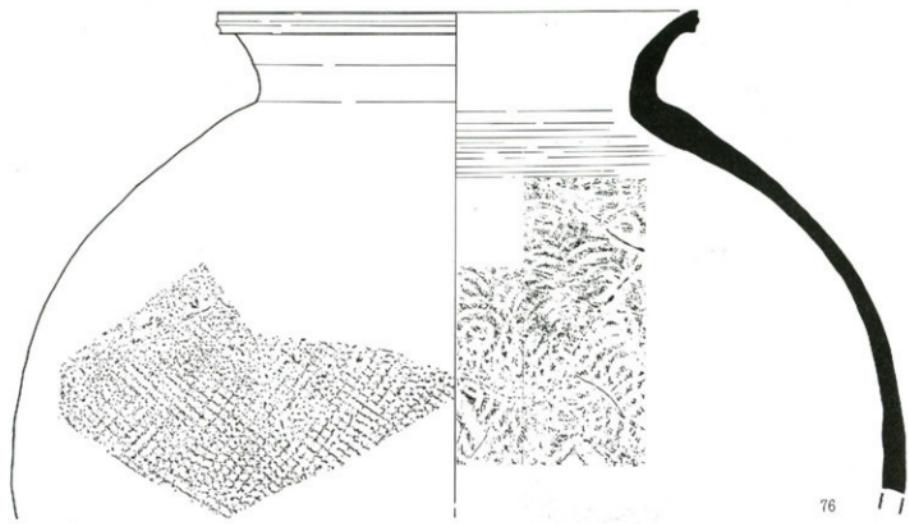
第52図 第6層出土遺物実測図(5)(S=1/2)



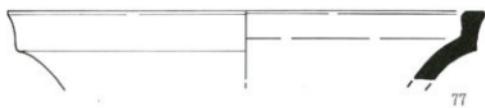
0 10cm



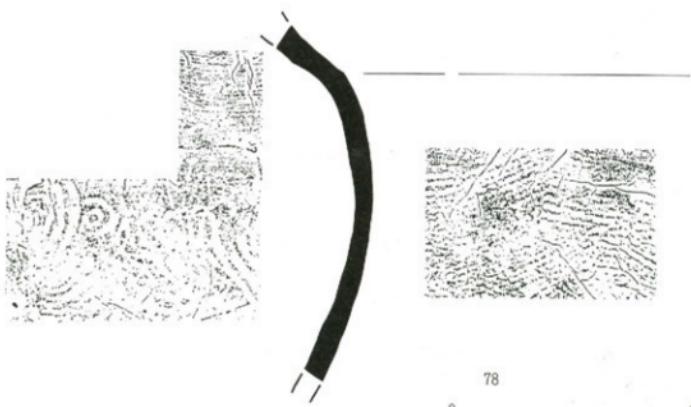
第53図 第6層出土遺物実測図(6)(S=1/2)



76

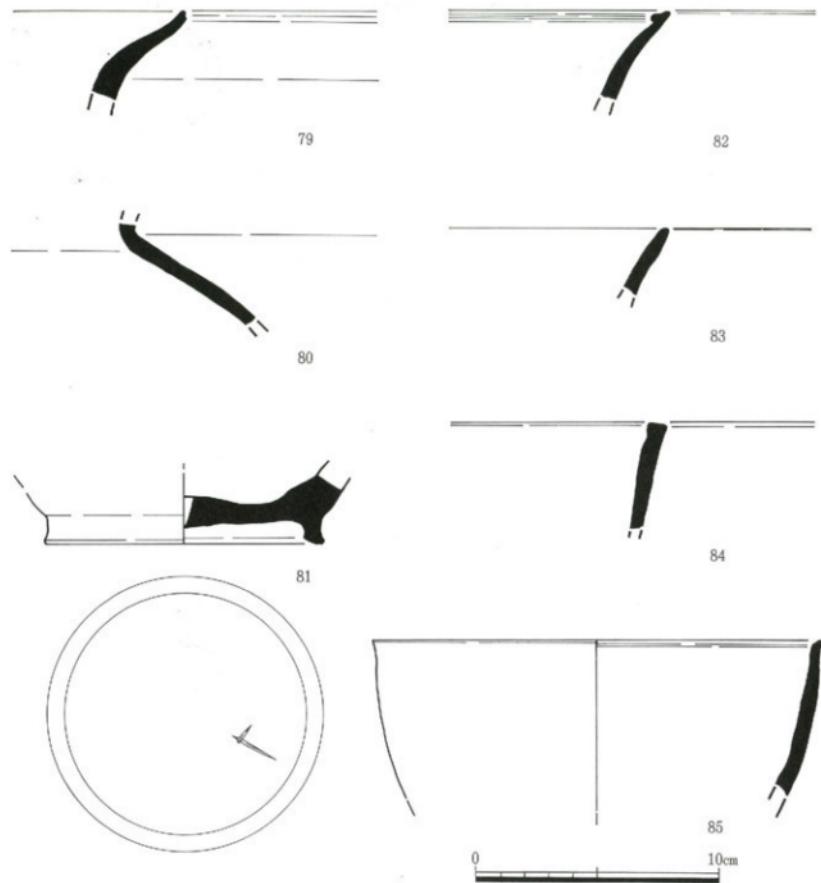


77



78

第54図 第6層出土遺物実測図⑦(S=1/2)



第55図 第6層出土遺物実測図⑧(S=1/2)

⑧ 石鎌形石器 第63図127

127は横長の剥片を素材とし、刃部は両面側から丁寧に作り出している。刃部には使用による摩滅が顕著に確認できる。また、装着する部分には薄い剥離により形態と薄さを整えている。

⑨ 磐平打製石斧 第63図128

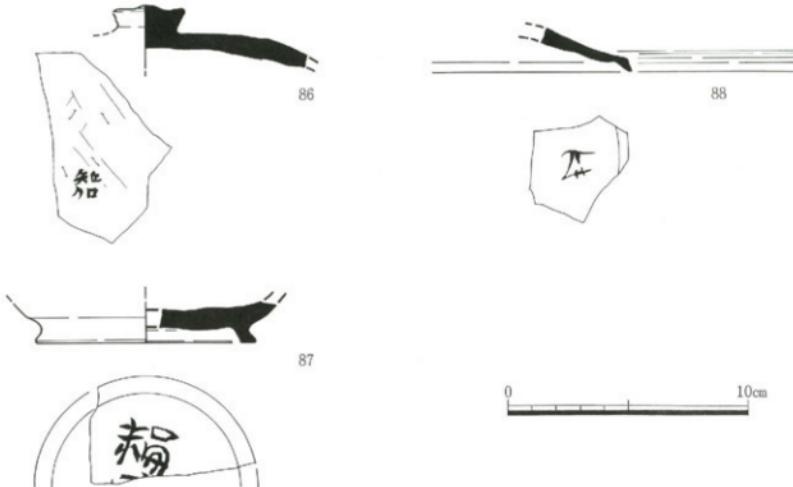
128は大きな周辺加工によって作製されており、刃部は表面側からのみ作り出されている。

⑩ 砥石 第63図129

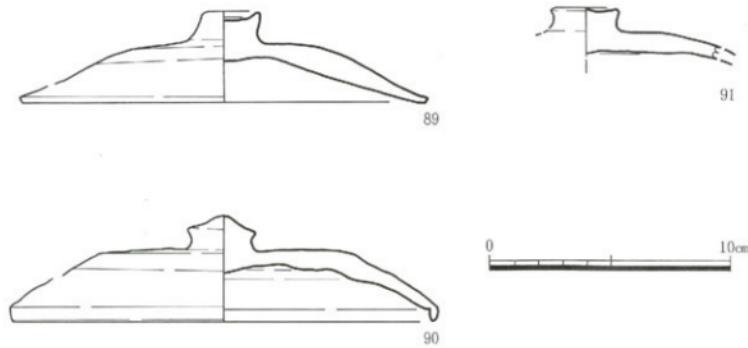
129は砂岩を用いた4面の磨面が観察される砥石である。断面観察によると、a・b面は使用の度合いが差しく、中央部に緩い円弧状に磨面がすり減っている。

⑪ 軽石製加工品 第63図130

130は軽石を薄く楕円状に整形しており、その後a面の上端部に横凹線を中央部に縦凹線を一条づつ工具で切



第56図 第6層出土遺物実測図⑨($S=1/2$)

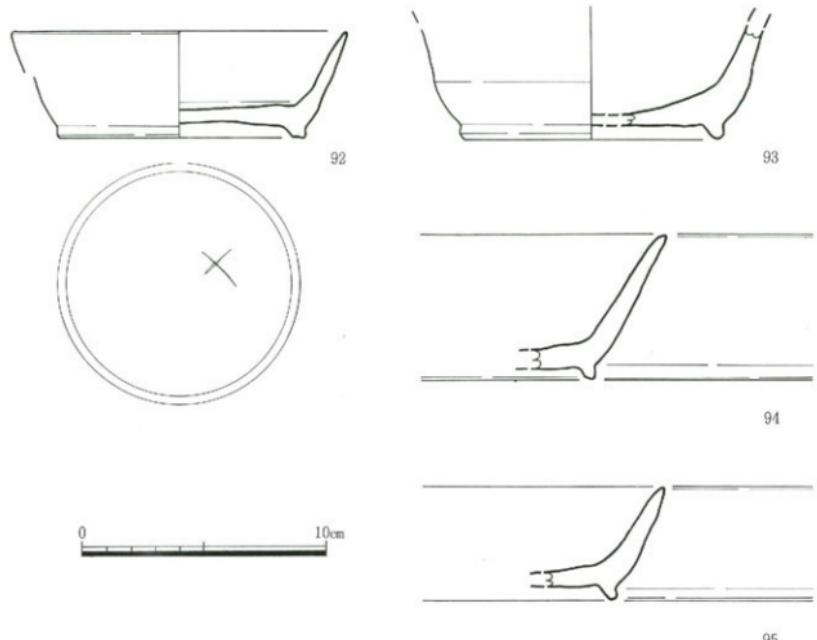


第57図 第6層出土遺物実測図⑩($S=1/2$)

り刻んでいる。また b 面も上端部に横凹線を一条切り刻んでおり、上端部は横凹線は a・b 面でつながり、まるで上端部を区分するために横凹線が巡らされているように観察できる。このような整形下降の状況から「陽石」として使われた可能性も考えられる。

⑫ 凹石 第63図131~133

131は安山岩製の石材を用いており、敲打痕による凹面は a・b 面に観察され、特に a 面には顕著に認められる。132は、凹面は a・b・c 面に顕著にされる。また、e 面と e 面の反対面には著しい敲打痕が残されている。

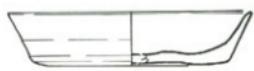


第58図 第6層出土遺物実測図①(S=1/2)

c面には凹面とそれを取り巻くように磨面が観察され、それらの切り合い状況から、磨石として使われていた道具を凹石に転用していることが考えられる。133は砂岩製の不整形の石材を素材としており、a・c・d面に凹面が観察される。凹面としては3面であるが、この石器は全体的に敲打痕が残されていることから、使用面として適した面と判断されれば用途に合わせて使われたと考えられる。また、132と同様にe面に凹面を取り巻くように磨面が観察され、その切り合い状況から、凹面として使われていた面を磨石の磨面として転用していることが考えられる。

⑩ 石皿 第63図134

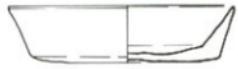
134は偏平な砂岩製の石材を素材としており、a面に使用による磨痕が確認できる。



96



99



97



100



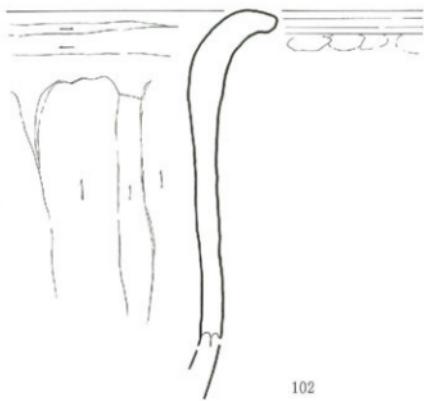
98



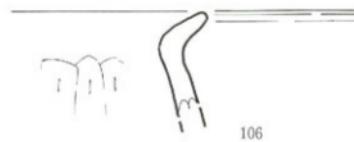
101



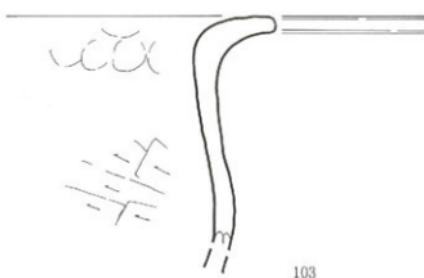
第59図 第6層出土遺物実測図(2)(S=1/2)



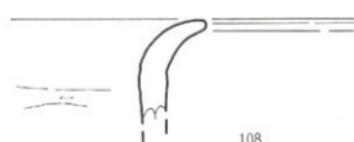
102



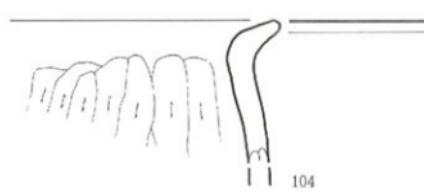
106



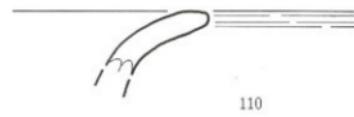
103



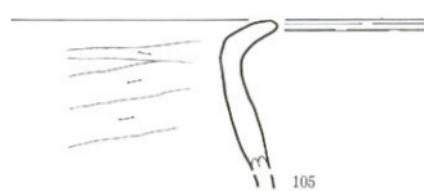
108



104



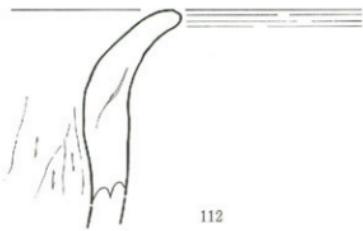
109



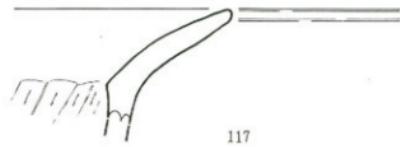
105



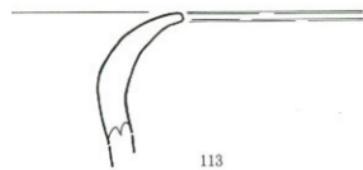
第60図 第6層出土遺物実測図⑬(S=1/2)



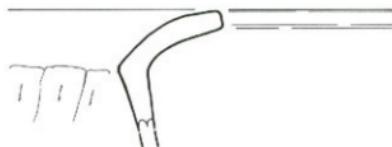
112



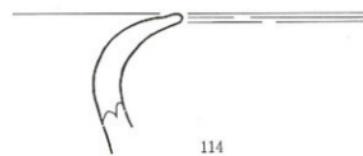
117



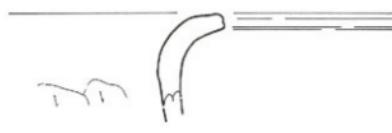
113



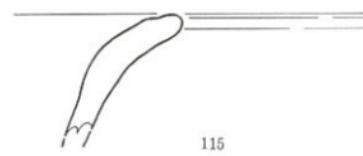
118



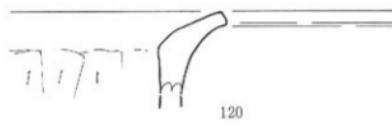
114



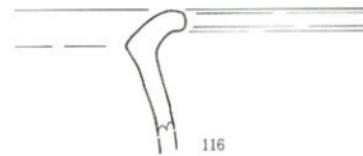
119



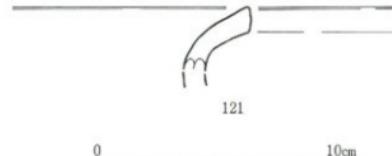
115



120



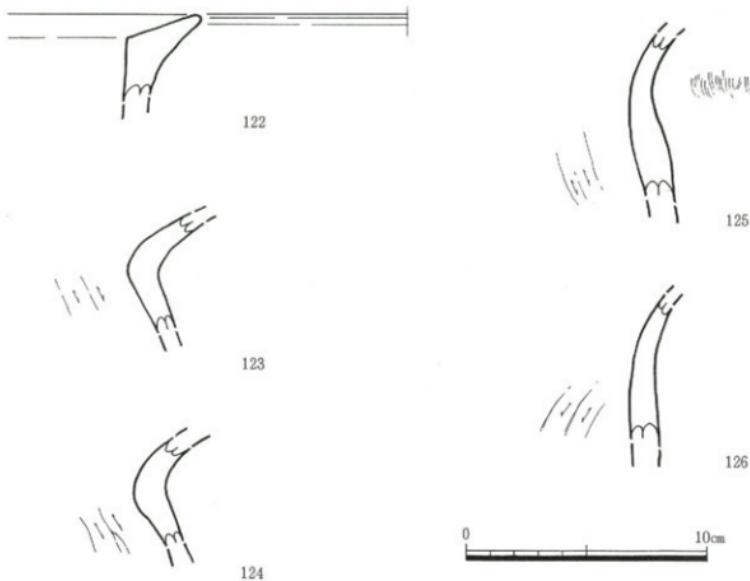
116



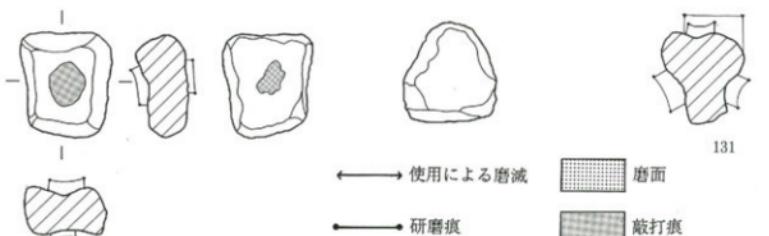
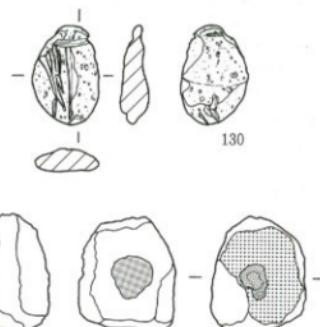
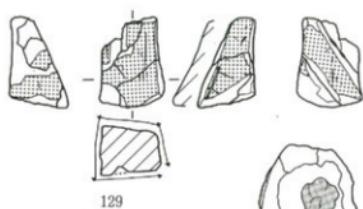
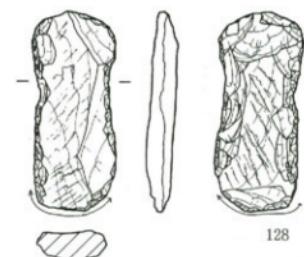
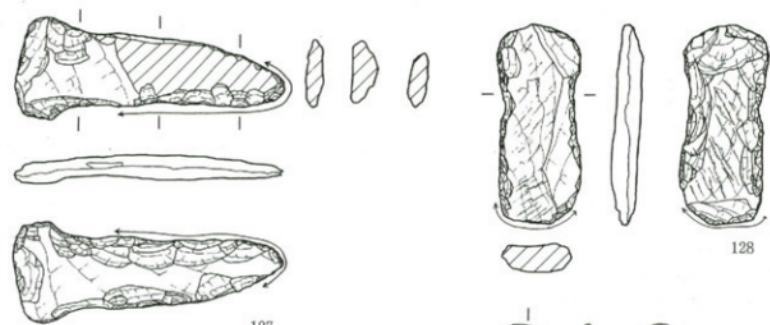
121



第61図 第6層出土遺物実測図⑩(S=1/2)



第62図 第6層出土遺物実測図(×S=1/2)



→ 使用による磨滅

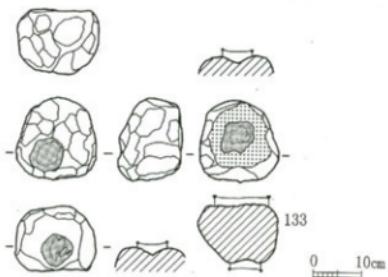
磨面

→ 研磨痕

敲打痕

→ 敲打痕

0 10cm



第6層出土遺物実測図16(S=1/2)

考 索

用途不明鉄製品について

当遺跡の総柱建物の近くから、用途不明の鉄製品が検出された。

この鉄製品は、厚さが3.5mm程度の盤状の鉄製品で、平面形が五角形（「圭形」と表現される）を呈するものと考えられるものである。

外周には5mm程度の高さで断面「U」字形の縁が形成される。

また、盤面（縁の張出している側）では、中央部に方形の浅い窪みが2ヶ所確認される。さらに、同じ盤面には、鉄銷が条線となって残存しており、条線を伴う原体（木質？）が、この板状鉄製品の上に載っていたものと考えられる。また、その原体は、現在残っていない事から、有機質のものなどが考えられる。

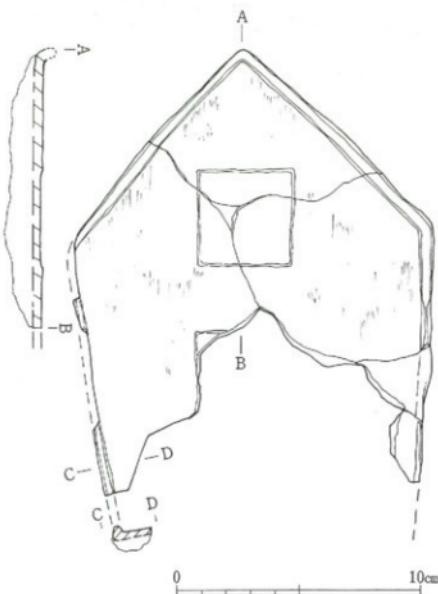
この鉄製品については、管見に触れる範囲では、今までに報告例がなく、その用途についての言及は積極的に展開できない。

しかし、縁を有する点や、何等かの同形の物を載せていた物であると考えられるものである。

用途不明鉄製品の形態特徴について

本鉄製品の形態を呈する考古遺物としては、極めて少なく、棟札などに若

第64図 第6層出土遺物実測図⑰(S=1/2)



また、亀トにおいて、亀甲を平面形が五角形に

ト伝記」などに残されている。この記載例では、「町」と呼ばれる方形の穴を亀甲にあけるなど、鉄製品の中央部に見られる方形の窪みを有する点など、形態的な特徴では一致する点が多いが、鉄製の板状の本製品をどのように用いたのかは不明である。

ただし、電申を載せた「ト盤」と呼ばれる道具についての記載があり、電申を直接火にかけるのではなく、電申を盤に載せたということが書かれていることから、「ト盤」は金属製であった可能性もある。

以上のことから、用途不明鉄製品については、現在、「櫻札説」、「ト盤説」などがあるが、いずれも確定要素に欠ける。しかし、形態の近似性、「町」に符号する痕跡、「ト盤」としての機能を充足する素材性などから、「ト盤」としての状況証拠が比較的優であると思われる。

仮に、「ト盤」であるとすれば、「亀ト」が敷額遺跡でも行われていた可能性が出てくるが、その場合の「亀ト」がどのレベルの施設まで行われていたかという点も問題視されると考えられる。

用途不明鉄製品の表面の鏽の付着条線について

用途不明鉄製品の表面の条線については、経緯線ではないことから、原体は纖維ではないと考えられる。また、骨組織と考える事も困難である。

現状では木質が原体であった可能性が高いと考えられるが、「ト盤」と考えたときに、なぜ、木質が全面に付着し、その痕跡が残存したのかは依然不明である。
(文責 下山)

2. 第9層出土遺物

第9層の出土遺物には、第65図137～146、第67図147、第68図155、156、158～161、第69図162～165、168、第70図173、174、177～180、第72図188、第73図190、194がある。

9層出土遺物の中で、最も下限を示すと考えられる遺物には、第68図157があり、これは「成川式土器」の壺形土器の口縁部～胴部突帯部である。従って、同層については、この資料から、古墳時代以降に生成された土層であると考えられる。

つまり、第9層では、弥生時代の遺物が多く包含されているが、その本来の帰属層については、第9層ではないと考えられる。

以下、第9層出土遺物について記述する。

① 壺形土器 第65図137～146、第67図147、第68図155、156、158～161、第69図162～165、168

137～140は弥生時代壺形土器である。口縁部に突帯が「L」字状に貼付され、突帯部分には、刻みが施される。刻みにはヘラ状工具、棒状工具が用いられたものと考えられる。

141～145、164、第67図147は、に断面三角形の刻みを施さない突帯を施したものである。弥生時代壺形土器である。

155～156は、胴部突帯部で刻みを施すものである。弥生時代壺形土器である。

158～161は、胴部突帯部で刻みを施さないものである。

158は、いわゆる「成川式土器」の範疇の壺形土器口縁部である。胴部に突帯が1条めぐる。

162は、「成川式土器」のうち「中津野式土器」と呼ばれる様式の中の壺形土器である。底部から肩部屈曲部までが残存する。肩部屈曲部の内面は、稜が形成されず丸みを帯びた形態を呈する。また、底部は脚台を有し、脚台内面見込部では「凸」形に突出する。脚台内面、胴部外面などには工具によるナデが施され、工具痕が観察される。

第69図163～165、167は弥生時代壺形土器の底部である。

第69図168は「成川式土器」の壺形土器の底部突帯部である。

② 壺形土器 第70図173、174、177～180、第73図190

173は、壺形土器の底部から肩部にかけての資料である。底部は小さく平底を呈するが不安定である。

174は、壺形土器口縁部である。口縁部は「く」字状に屈曲し外反する。

177は、広口壺形土器の口縁部である。口唇部には「ハ」字状に刻みが施され、口縁部下には、刻みを施さない突帯が横位に1条、縱位に3条施されている。

178は、壺形土器口縁部である。口唇部は、ヨコナデによって平坦に仕上げられる。

179、180は壺形土器底部である。

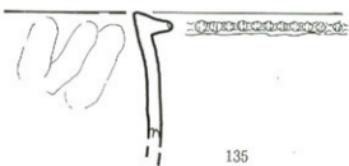
190は、無颈壺形土器の完全品である。底部は平底を呈するが、安定しない。口縁部は小さく外反する。

③ 高環形土器 第72図188

188は「成川式土器」の高環形土器である。略完形品で内外面ともに赤色塗彩が施される。環部体部の屈曲部は段が形成され、そこで屈曲し口縁部へほぼ直立して向かう。

④ ミニチュア土器 第73図194

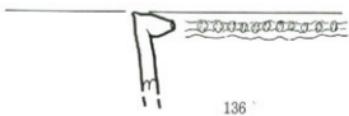
コップ形のミニチュア土器である。底部は平底であるが、安定しない。



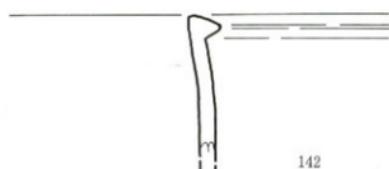
135



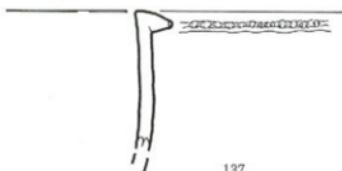
141



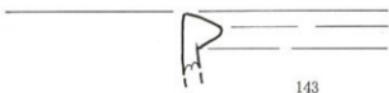
136



142



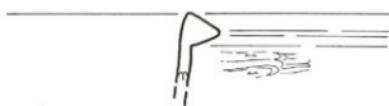
137



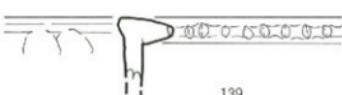
143



138



144



139



145



140



146



第65図 第9層出土遺物実測図①(S=1/2)

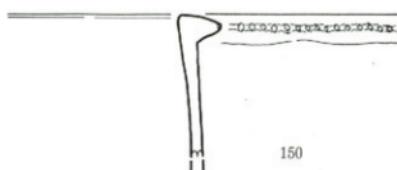


※図中は取り上げNo.

第66図 第9層及び12層遺物出土状況図(S=1/100)



147



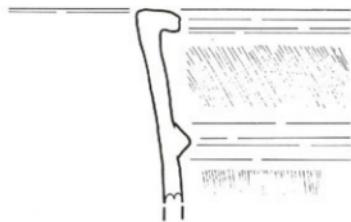
150



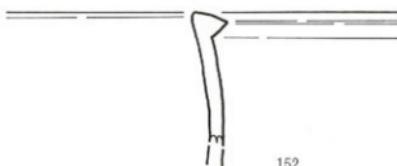
148



151



149

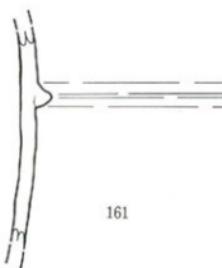
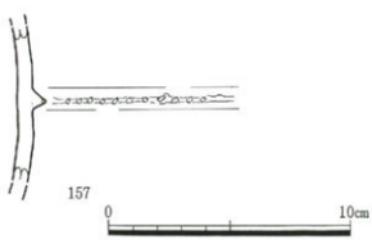
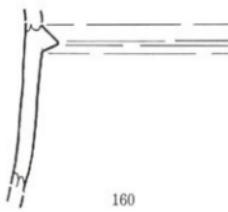
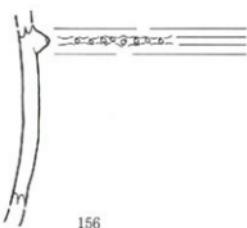
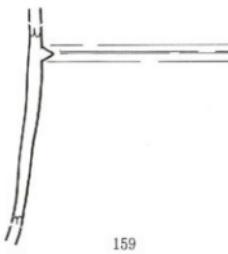
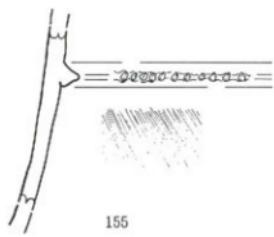
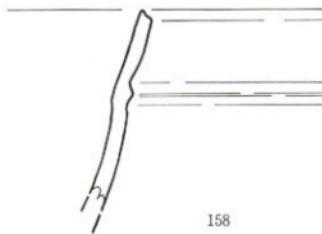
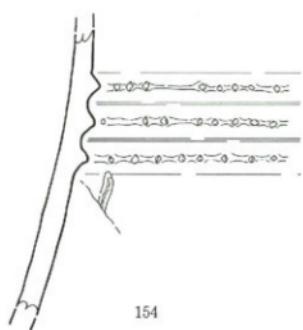


152

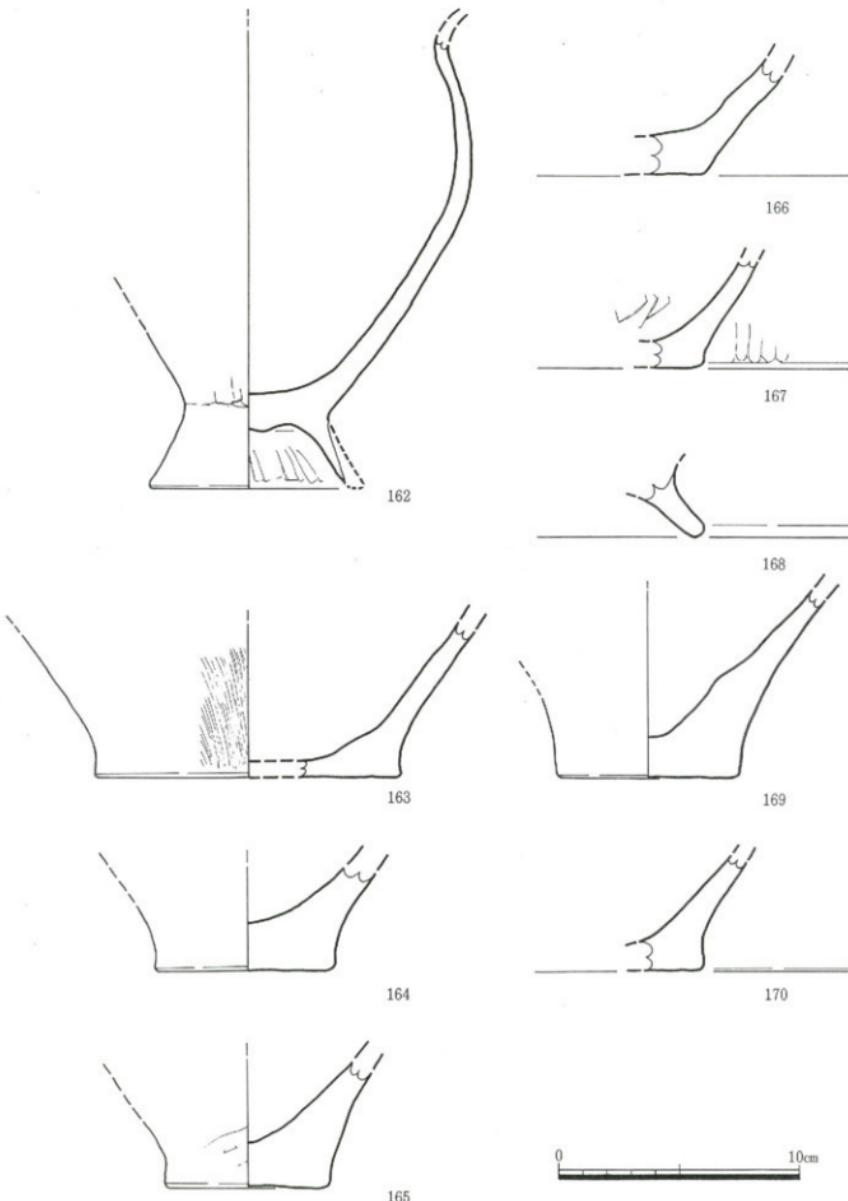


153

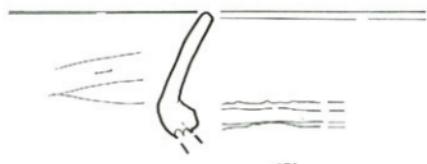
第67図 第9層、10層、12層出土遺物実測図②(S=1/2)



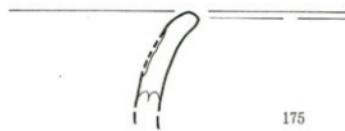
第68図 第9層、12層出土遺物実測図③(S=1/2)



第69図 第9層、12層出土遺物実測図④($S=1/2$)



171



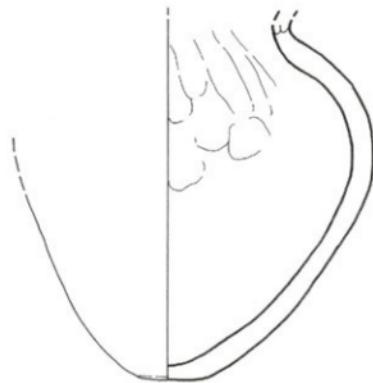
175



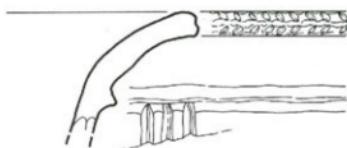
172



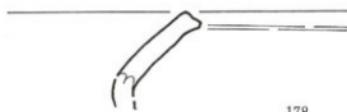
176



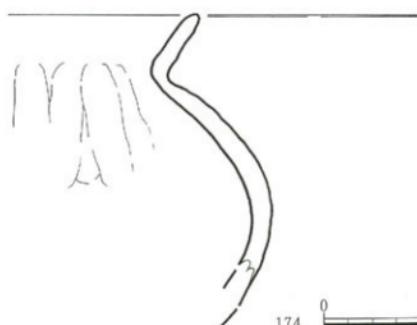
173



177



178



174



179



180

第70図 第6層、9層出土遺物実測図⑤($S=1/2$)

3. 第10層出土遺物

第10層出土遺物には、第67図149、第69図169、第72図198がある。いずれも弥生時代の遺物と考えられるものである。

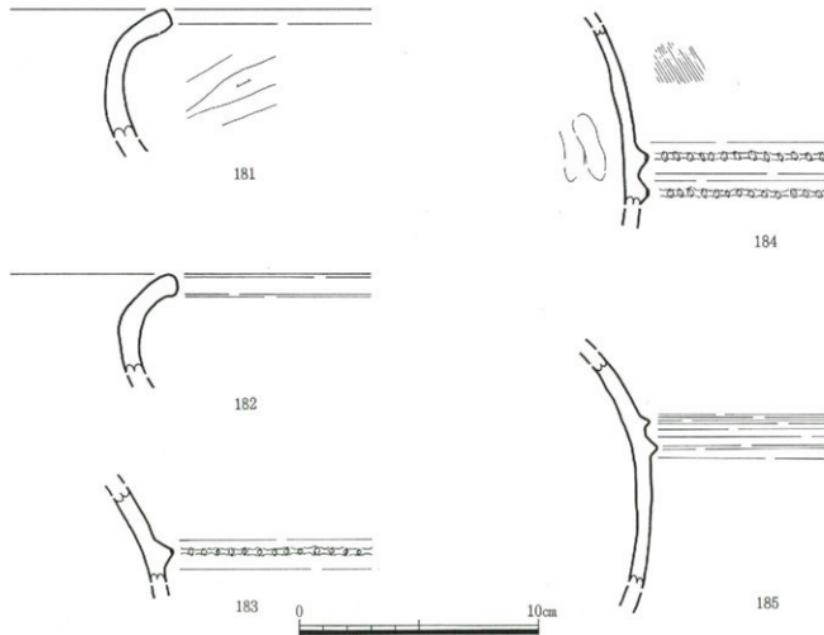
① 麗形土器 第67図149、第69図169

149は、麗形土器口縁部である。口縁部が「L」字形を呈し、口縁部下に一条の突帯を有するものである。胴部外面にはハケメが施される。

169は、麗形土器底部で、平底である。

② 高坏形土器 第72図189

189は、高坏形土器の坏部である。胴部屈曲部が明瞭で、胴部屈曲部から口縁部にかけてやや外反しながら直立する。



第71図 第12層出土遺物実測図(S=1/2)

第12層出土遺物

第12層出土遺物には、第67図150～153、第69図170、第71図181～185がある。いずれも弥生時代の遺物と考えられるものである。

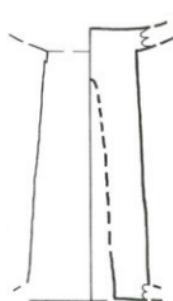
① 壺形土器 第67図150～153、第69図170

150～153は壺形土器の口縁部である。口縁部には断面三角形の突帯が施され、第67図150、151は刻みが施される。一方、152、153は、刻みが施されない。第69図170は、壺形土器底部で平底を呈する。

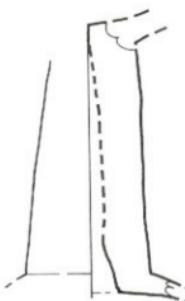
② 壺形土器 第71図181～185

181、182は壺形土器口縁部である。口縁部は外反し口唇部はヨコナデにより、平坦に仕上げられる。

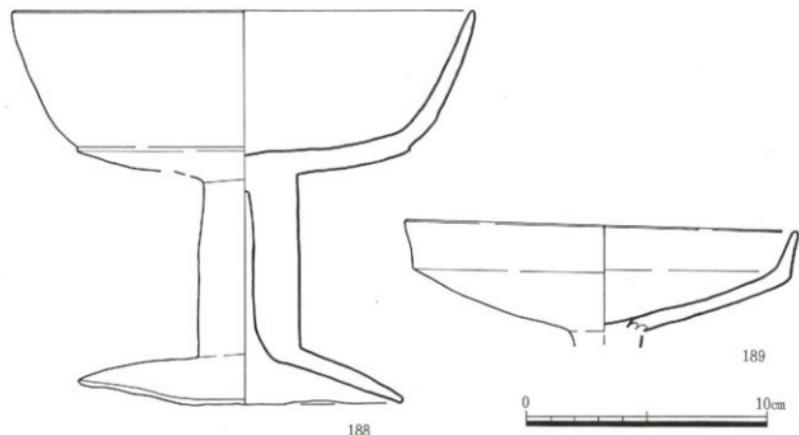
183～185は壺形土器の胴部突帯部である。183は刻みを施す突帯が1条、184は刻みを施す突帯が $2 + \alpha$ 条貼付される。184は刻みを施さない突帯が2条貼付されている。



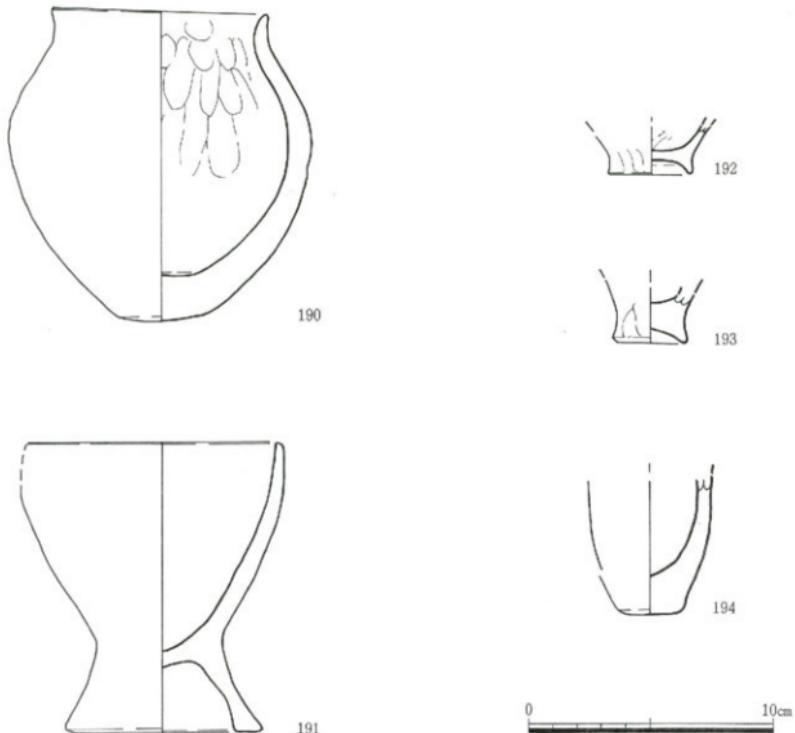
186



187



第72図 第6層、9層、10層出土遺物実測図($S=1/2$)



第73図 第9層出土遺物実測図(S=1/2)

<参考文献>

- 熊本県教育委員会・松本健郎・勢田広行 1980『第IV章遺跡解説 I 荒尾窯跡群』「生産遺跡基本調査報告書」II
熊本県教育委員会 熊本市
- 中村直子 1987『成川式土器再考』「鹿大考古」第6号 鹿児島大学法文学部考古
学研究室 鹿児島市
- 金峰町教育委員会・宮下貴浩 1995『山野原遺跡』「農地土地利用変更に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
書」金峰町教育委員会 鹿児島市
- 下山覚 1992『指宿市橋牟礼川遺跡出土の須恵器台付長頸壺の年代比定とその意
義について』「人類史研究」第8号 人類史研究会 鹿児島市
- 下山覚 1993『橋牟礼川遺跡の「被災」期日をめぐる縦年の考察』「古文化談叢」
第30集(下)古文化談叢発刊20周年小田富士雄代表遺歴記念論
集(Ⅲ)九州古文化研究会 北九州市
- 指宿市教育委員会・下山覚他 1996『橋牟礼川遺跡X I』「史跡等活用特別事業に伴う国指定史跡指宿
橋牟礼川遺跡確認調査報告書』指宿市教育委員会 鹿児島市
(文責 下山)

遺物観察表 1

固番	取上IDNo.	或存法量	器種	部位	色①	色②	色③	色④	断土層	堆积	圖	整	その他の	総合
1	渾中	1/8~1/楕円	變形土器	口縁部	7.5YR7/6	7.5YR6/3 2.5YR6/6	2.5YR6/1 7.5YR7/3	-	砂粒を含む 若干含む	④⑤⑥⑦ ⑧ヨコナデ	⑨ナデ ⑩ヨコナデ	直き者モモン 良好		
2	渾中	1/6~1/楕円	變形土器	口縁部	7.5YR8/4	7.5YR8/4	10YR5/1	-	砂粒を含む 若干含む	④⑤⑥⑦ ⑧ヨコナデ ⑨ヨコナデ	⑩ナデ ⑪ヨコナデ	直き者モモン 良好		
3	渾中	破片	變形土器	底部	7.5YR7/4	-	7.5YR7/4	7.5YR7/4	細砂粒を含む 若干含む	④⑤⑥ ⑦	⑧ナデ ⑨ヨコナデ	良好		
4	渾中	破片	變形土器	底部	10YR7/3 5YR7/6	-	7.5YR8/3	7.5YR7/2	細砂粒を含む 若干含む	④⑤⑥⑦ ⑧ヨコナデ	⑩ナデ ⑪ヨコナデ	良好		
5	3	⑩1/1残存 ⑪2.6cm ⑫1/1残存 ⑬3.4cm	小 型 瓶	底部～ 瓶部	2.5YR6/9 N2/9 7.5YR7/3	5P94/1 7.5YR6/1 5R5/1	2.5YR6/8 5R5/1 3.5YR8/8	砂粒を含む 若干含む 細砂粒を含む	④⑤⑥⑦ ⑧ハクラク	⑩ナデ	直き者モモン 良好			
6	4	⑩1/1残存 ⑪3.3cm ⑫12cm	小 型 瓶	瓶部	2.5YR6/6 10YR2/1	2.5YR6/6 10R3/1	2.5YR6/6 7.5YR7/2	-	砂粒を含む 若干含む 細砂粒を含む	④⑤⑥⑦ ⑧ヨコナデ ⑨ミガキ、マツツ	⑩ナデ ⑪ヨコナデ	良好		
7	896	⑩1/2残存 ⑪12cm	變形土器	口縁部	10YR7/3	2.5Y5/1	2.5Y5/1	-	細砂粒を含む 多く含む 細砂粒を含む	④⑤⑥⑦ ⑧ナデ ⑨ナデ	直SA-2種 土中出土	974		
8	974	⑩1/3残存 ⑪3.5cm ⑫1.9cm ⑬0.7cm ⑭3.6cm	變形土器	口縁部 ～瓶部	2.5YR6/6 5YR6/2 7.5YR6/3	7.5YR7/3 10YR5/2 10YR5/1	7.5YR6/2 10YR5/1	砂粒を含む 若干含む 細砂粒を含む	④⑤⑥⑦ ⑧ヨコナデ	⑩ナデ ⑪ヨコナデ ⑫ナデ ⑬ヨコナデ	直好 ナメ6本/3m	884, 886 888		
9	979	破片	變形土器	口縁部 ～瓶部	5YR7/6 5YR4/1	2.5YR6/6 5YR5/2	6YR4/1	-	細砂粒を含む 多く含む 細砂粒を含む	④⑤⑥ ⑦	⑩工具によるナナヂのち ナデ ⑪工具によるナ ナヂのちナデ ⑫ヨコナデ	マス什器		
10	977	破片	変形土器 瓶形土器	口縁部	10YR5/3 10YR4/1	N3/0	7.5YR7/2	-	細砂粒を含む 多く含む 細砂粒を含む	④⑤⑥⑦ ⑧外	⑩工具によるナナヂのち ナデ ⑪工具によるナ ナヂのちナデ ⑫ヨコナデ	良好		
11	5A-2		高环状土器	口縲部 ～瓶部	7.5YR8/4 2.5YR6/2	7.5YR7/4 10YR6/1	10YR6/1 7.5YR7/3	-	細砂粒を含む 若干含む 細砂粒を含む	④⑤⑥⑦ ⑧外	⑩工具によるナナヂのち ナデ ⑪工具によるナ ナヂのちナデ ⑫ヨコナデ	良好		
12	978	⑩1/1 ⑪3.2cm	ミニチュア 變形土器	瓶部	7YR7/4 2.5YR4/1	8YR6/2	8YR5/2	7.5YR7/4	砂粒を含む 若干含む 細砂粒を含む	④⑤⑥⑦ ⑧外	⑩ナデ ⑪ユビリオサエのちナデ ⑫ヨコナデ	良好	970 971	
13	972	⑩1.3cm ⑪2.2cm ⑫3.2cm ⑬14.0g	瓶	石										
14	2(9号)	⑩4.5cm ⑪3.7cm ⑫1.7cm ⑬19.9g	磨石製加工品											
15	902	⑩14.7cm ⑪7.5cm ⑫2.5cm ⑬360g	扁平打撲石斧											
16	916	⑩25.8cm ⑪15.3cm ⑫15.0cm	空 热 壺											
17	951	⑩2.2cm ⑪最大1.1cm ⑫4.7cm ⑬8.6cm	堆形土器	变形	2.5YR6/4	7.5YR7/4	-	⑩ 2.5YR6/4	砂粒を含む 若干含む 細砂粒を含む	⑪外	⑩ナデ ⑪ヨコナデ ⑫ヨコナデ ⑬ヨコナデ	直好		
18	一枚, SA3	破片	變形土器 (弥生時代)	突縲部	7.5YR7/6 5YR6/2	2.5YR6/4	7.5YR6/3 2.5Y3/1	-	細砂粒を含む 若干含む 圓形粒を含む	④⑤⑥⑦ ⑧外	⑩ナデ ⑪ヨコナデ ⑫ヨコナデ	縛きギモン 良好		
19	624	フマニ3/4 残存	須志器蓋	-	2.5Y4/1	2.5YR7/4	10YR6/4 10Y6/1	-	齒砂粒を 微量含む	④外	⑩瓶ナナヂのちナデ ⑪瓶ナナヂのちナデ	良好		

◎白化粧, ◎黒化粧, ◎カタセン石, ◎セキエイ, 直好～縛きギモン

遺物観察表 2

図番	取上げ年	残存状況	器種	部位	色 ①	色 ②	色 ③	色 ④	胎土 色	調査用	質	その他の	総合
20	160	アラル/城南	須恵器蓋	-	10YT/1	10YT/1	10YT/1	-	細砂粒を微量含む	②外	回転ナダのちナダ ⑤回転ナダのちナダ	良好	
21	183	アラル/城南	須恵器蓋	-	Y8/1	5Y8/1	5Y8/1	-	砂粒を微量含む	②外	回転ナダのちナダやマメツ ⑤回転ナダのちナダ	良好	
22	184	1/1残存 約2.8cm 約1.2cm 約2.1cm	須恵器蓋	-	N6/0	N6/0	N6/0	-	細砂粒を微量含む	②③外	ナダやマメツに汚泥 の跡あり ④回転ナダの ちナダやマメツ ⑤ヨコナダ	良好	
23	758	アラル/城南	須恵器蓋	-	5YR5/1 10R4/4	7.5YR5/1	7.5YR5/1	-	細砂粒を微量含む	②外	回転ナダのちナダ ⑤回転ナダ	良好	173
24	692	② 1/4-レ・ラ柄 ③ (底丸)15.2cm	須恵器蓋	-	N6/0	N6/0	N6/0	-	細砂粒を微量含む	②外	回転ナダ ⑤回転ナダ	良好 反転	695
25	699	破片	須恵器蓋	口縁部	5Y5/1	5Y5/1 10YR7/3	10YR7/3	-	細砂粒を若干含む	②③外	回転ナダ ⑤回転ナダ	焼きガモン 良好	
26	444	破片	須恵器蓋	口縁部	2.5Y5/1 10YR7/4	10YR7/4	5YR7/3	-	細砂粒を微量含む	②③外	回転ナダ ⑤回転ナダ	良好	
27	766	破片	須恵器蓋	口縁部	10YR6/2	7.5YR7/3	7.5YR7/3 2.5YR6/3	-	細砂粒を微量含む 砂粒を微量含む	②③④外	回転ナダ ⑤回転ナダ	良好	701
28	765	破片	須恵器蓋	口縁部	2.5Y6/1	2.5Y6/1	SYR7/2 5YR6/1	-	細砂粒を微量含む	②外	回転ナダ ⑤回転ナダ	焼きガモン 良好	702, 同一
29	171	破片	須恵器蓋	口縁部	7.5Y7/1	2.5Y7/1	7.5Y7/1	-	細砂粒を微量含む	②外	回転ナダ ⑤回転ナダ	焼きガモン 良好	
30	159	破片	須恵器蓋	口縁部	5Y6/1	5Y6/1	5Y6/1	-	細砂粒を含む	②外	回転ナダ ⑤回転ナダ	焼きガモン 良好	161
31	707	破片	須恵器蓋	口縁部	10YR5/1	N4/0	2.5YR6/1	-	細砂粒を若干含む	②外	回転ナダ ⑤回転ナダ	良好 焼きガモン 自然崩落子育付	
32	6号・一枚	破片	須恵器蓋	口縁部	5Y6/1	5Y7/1 10BG5/1	10YR6/2	-	細砂粒を若干含む	②③外	回転ナダ ⑤回転ナダ	焼きガモン 良好	
33	697	破片	須恵器蓋	口縁部	N6/0 N5/0	N6/0	N6/0	-	細砂粒を含む	②外	回転ナダ、マメツ ⑤回転ナダ、マメツ	焼きガモン	
34	762	破片	須恵器蓋	口縁部	N4/0	N4/0	10R5/2 N4/0	-	細砂粒を若干含む	②③外	回転ナダ ⑤回転ナダ	焼きガモン 良好	
35	775	破片	須恵器蓋	口縁部	N6/0	N6/0	N6/0	-	細砂粒を含む	②外	回転ナダ ⑤回転ナダ		776
36	一枚	破片	埴形土器	口縁部	N4/0	N4/0	N4/0	-	細砂粒を若干含む	②外	ナダ ⑤回転ナダ	良好	
37	610	破片	埴形土器 (弥生時代)	口縁部	10Y5/1	10Y5/1	10Y5/1	-	細砂粒を微量含む 砂粒を微量含む	②③外	回転ナダ ⑤回転ナダ	焼きガモン 良好	
38	6号・一枚	破片	須恵器蓋	口縁部	N5/0	5B4/1	5B6/1	-	細砂粒を若干含む	②③外	回転ナダ ⑤回転ナダ	焼きガモン 良好	

①白色系、②黒色系、③カッセン系、④セキスイ、良好=焼成良好

遺物観察表 3

回番	取上: FN	残存状況	器種	部位	色 ④	色 ⑤	色 ⑥	色 ⑦	胎土 材	鉢形	調 整	その 他	被 合
39 260	破片	須恵器 盒	口縁部	10G4/1	10G4/1	10G4/1	-	微砂粒を若干含む	④外	④回転ナデ ⑤回転ヘラケズリのちナデ	良好		
40 659	破片	須恵器 盒	口縁部	N7/0	10RQ4/1	2,5YT/1	-	微砂粒を若干含む 胎土を若干含む	④外	④回転ナデ,自然釉	良好		
41 552	①/3-1/1頭部 ②1.5cm ③1.1cm ④1.1cm ⑤0.6cm ⑥0.7cm	須恵器 环	-	N4/0	N4/0	N4/0	④RNT	N4/0	微砂粒を若干含む 胎土を若干含む	④外	④ナデ ⑤ナデ ⑥ナデ	良好	10K,548, 558,561, 579,641, 640,645, 651,652, 654,676
42 399	①/1/1底部 ②0.2cm	須恵器 环	-	N4/0	N4/0	N4/0	若在	N4/0	微砂粒を若干含む	④外	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥回転陶輪ナデ	良好 反版	30S,379, 384,451, 500,508, 595,605, 649,719
43 465	①/3-1/1頭部 ②1.2cm ③1.1cm ④1.0cm ⑤0.5cm ⑥0.2cm	須恵器 环	-	N5/0 N3/0	N5/0	N5/0	若在	N5/0	微砂粒を若干含む	④外	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥回転陶輪ヘラケズリのちナデ	良好 反版	314,344, 813,814
44 186	①/1/1頭部 ②0.5cm	須恵器 环	-	N4/0 5YT/1	N4/0	N4/0	若在	5YE/1	微砂粒を若干含む	④外	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥回転陶輪ヘラケズリのちナデ	良好 反版	300,314, 460,467, 656
45 724	①/3-1/1頭部 ②1.0cm ③0.9cm ④0.8cm ⑤0.7cm	須恵器 环	-	N5/0	N5/0	N5/0	若在	N5/0	微砂粒を若干含む 胎土を若干含む	④外	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥回転陶輪ヘラケズリのちナデ	良好	690,714, 723
46 296	①/1/1/1頭部 ②0.5cm ③0.4cm ④/1/1/1頭部 ⑤0.8cm	須恵器 环	-	N5/0	N5/0	N5/0	④RNT	N5/0	微砂粒を若干含む 胎土を若干含む 微砂粒を若干含む	④外	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥回転ヨコナデ ⑦回転陶輪ヘラケズリのちナデ	後成良好 反版	230,317, 321
47 56	①/1/1頭部 ②0.5cm	須恵器 环	-	5Y6/1	5Y6/1	5YE/1	若在	5YE/1	微砂粒を若干含む	④外	④ナデ, 回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥回転陶輪ヘラケズリのちナデ	良好 反版	107,112
48 729	破片	須恵器 盒	口縁部~底部	N6/0	N6/0	N6/0	若在	N6/0	微砂粒を若干含む 胎土を若干含む	④外	④回転ナデ ⑤回転ナデ, 回転ナデ ⑥回転陶輪ヘラケズリ	良好	858,727
49 193	破片	須恵器 盒	口縁部~底部	N6/0 10G4/1	N5/0	N5/0	④RNT	N8/0	微砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	④外	④ナデ, 司南ナデ ⑤回転ナデ ⑥回転陶輪ヘラケズリのちナデ	良好	6層一般
50 332	破片	須恵器 盒	口縁部~底部	N6/0	N6/0	N6/0	④RNT	N8/0	微砂粒を若干含む 胎土を若干含む 微砂粒を若干含む	④外	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥回転陶輪ヘラケズリのちナデ	後成良好	
51 342	破片	須恵器 高环形土器	口縁部	N6/0	N5/0	N5/0 2.5YS/1	-	微砂粒を若干含む		④回転ナデのちナデ ⑤回転ナデのちナデ	良好		
52 491	破片	須恵器 高环形土器	口縁部	7SYB/1 5YT/1	5YS/1	5Y5/1	-	微砂粒を若干含む 胎土を若干含む		④回転ナデのちナデ ⑤回転ナデのちナデ	良好	494	
53 187	破片	須恵器 高环形土器	口縁部	N6/0 N5/0	N5/0	N5/0 10Y5/1	-	微砂粒を若干含む	④外	④回転ナデのちナデ ⑤回転ナデのちナデ ⑥回転ナデのちナデ, キゲミ	良好	185 345同一	
54 545	破片	須恵器 高环形土器	口縁部	N6/0 N5/0	N6/0	N6/0	-	砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	④外	④回転ナデのちナデ ⑤回転ナデのちナデ	良好		
55 716	破片	須恵器 高环形土器	口縁部	5YE/1	N5/0	7.5GY5/1	-	細砂粒を含む	④外	④回転ナデのちナデ ⑤回転ナデのちナデ	良好		
56 230	破片	須恵器 高环形土器	口縁部	2.5Y7/1	7.5YT/1	10YR7/1	-	微砂粒を若干含む	④外	④回転ナデのちナデ ⑤回転ナデのちナデ	良好		
57 438	破片	須恵器 高环形土器	口縁部	2.5Y6/1	5Y6/1	5Y5/1	-	微砂粒を若干含む 胎土を若干含む		④回転ナデのちナデ ⑤回転ナデのちナデ	良好	453 一般	

◎白地紋、◎黒地紋、◎カセニ石、◎セキイ、良好…極度良好

遺物觀察表 4

番号	取扱No	選択法	器	種	部	色	色	色	色	胎	土	粘	證明	質	その	他	総合
58	6層・一般	織片	坪	上・下部	口縫部	2.5GY6/1	2.5GY6/1	2.5GY6/1	-	織紋を含む 綿混合物	⑪外	回転ナデ 回転ナデ	良好				
59	780	織片	廣	惠	器	底部	N6/0	10YR7/3 5YRS/4	10YR7/3 5YRS/4	表面④ N6/0	織紋を含む	⑩⑪外	回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ	良好			
60	226	⑩⑪地在	廣	惠	器	底部	7.5Y6/1	10YR7/2	10YR7/2	表面② 7.5YH-1	織紋を含む 糸子を含む 織紋を含む 糸子を含む	⑩⑪外	回転ナデ 回転ナデ 回転ヘタケツリ のちナデ	不良 上緋色			
61	883	織片	廣	惠	器	底部	5R6/1	2.5Y7/2 10Y6/1	2.5Y7/1	⑩2.5Y7/1	織紋を含む 糸子を含む 織紋を含む 糸子を含む	⑪⑫外	回転ナデ 回転ナデ 回転ヘタケツリ のちナデ	良好			
62	770	⑩⑪地在 4.8cm	廣	惠	器	底部	N5/0	N5/0	N5/0	表面④ N6/0	織紋を含む 糸子を含む 織紋を含む 糸子を含む	⑩⑪外	回転ナデ 回転ヘタケツリ のちナデ	良好			
63	6層・一般	織片	廣	志	器	底部	7.5Y7/1	10Y7/1	7.5Y7/1	表面 7.5Y7/1	織紋を含む 糸子を含む 織紋を含む 糸子を含む	⑪外	回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ	良好			
64	550	⑩⑪1/2地在 13cm 4.8cm	廣	惠	器	-	N6/0	N6/0	N6/0	⑩N6/2	織紋を含む	⑪⑫外	回転ナデ 回転ナデ 回転ヘタケツリの ナデ	良好			
65	419	⑩⑪1/2地在 13cm 4.8cm	廣	惠	器	-	2.5YR4/4 7.5YR5/1	7.5YR5/3 7.5YR6/2	⑩2.5YR5/2	微砂を 含む	⑪外	回転ナデ 別ナデ 回転ヘタ ケツリのナ デ	良好		278,411, 415,416, 422,427, 592		
66	359	4/5在 14.5cm 7.8cm	廣	惠	器	-	N6/0	10YR5/2 5Y3/1 7.5YRS/2	10YR6/1 HEUR-1	微砂を含む 織紋を含む	⑪外	回転ナデ 回転ナデ 回転ヘタケツリの ナデ	良好 良好		251,360, 388		
67	856	⑩⑪地在 4.8cm	廣	惠	器	底部	N7/0 5PBD/1	N7/0 5PBD/1	N7/0	⑩N7/0 5PBD/1	織紋を含む	⑪外	回転ナデのちナデ 回転ヘタのナデ 回転ヘタケツリの ナデ			531,537, 576,848	
68	855	⑩⑪1/2地在 4.5cm	廣	惠	器	底部	N6/0	N6/0	N6/0	⑩N6/2	形狀を含む 糸子を含む 織紋を含む 糸子を含む	⑪外	回転ナデのちナデ 回転ヘタのナデ 回転ヘタケツリの ナデ	良好		847	
69	497	⑩⑪ 1/2地在 5在	廣	志	器	(1)機部 -底部	10Y7/1	10Y7/1	10Y7/1	⑩10Y7/1	織紋を含む 糸子を含む 織紋を含む 糸子を含む	⑪⑫外	回転ヘタカツリ 回転ヘタのナデ 回転ヘタケツリの ナデ	良好		696 満マイド	
70	190	織片	廣	志	器	口縫部 -底部	N5/0	N5/0	N6/0	⑩N6/2	織紋を含む 糸子を含む	⑪外	回転ヘタのナデ 回転ヘタのナデ 回転ヘタケツリの ナデ	良好		440 441	
71	788	織片	廣	志	器	口縫部 -底部	5Y7/1	5Y7/1	5Y7/1	⑩5Y7/1	織紋を含む 糸子を含む 織紋を含む 糸子を含む	⑪外	回転ナデのちナデ 回転ヘタのナデ 回転ヘタケツリの ナデ	良好		250 255	
72	137	織片	廣	惠	器	口縫部 -底部	5Y7/1	5Y7/1	5Y7/1	⑩5Y7/1	織紋を含む	⑪外	回転ナデのちナデ 回転ヘタのナデ 回転ヘタケツリの ナデ	良好		91,94,96, 135	
73	582	織片	廣	志	器	口縫部 -底部	N6/0	N6/0	N6/0	⑩N6/2	織紋を含む	⑪外	ナデやヘタ ナデやヘタ ナデやヘタ	良好		583	
74	209	⑩⑪ 1/2地在	廣	志	器	-	5Y7/1	5Y7/1	5Y7/1	⑩5Y7/1	織紋を含む 糸子を含む 織紋を含む 糸子を含む	⑪⑫外	回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ	良好			
75	879	織片	廣	志	器	高環形土器 or环形土器	5R6/1	10Y5/2	2.5YR7/6	-	織紋を含む 糸子を含む 織紋を含む 糸子を含む	⑪外	ナデ 回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ	不良		826,875	
76	800	⑩⑪地在 4.8cm	廣	志	器	底部	10R4/3 5YR3/1	2.5YR5/2 2.5YR2/1	N6/0	-	織紋を含む	⑪外	ナデ 回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ	良好		213,585, 595,600, 627,628, 647	

⑪白毛奴、⑫黒毛奴、⑬カクセン石、⑭セキエイ、此野…他成山村

遺物観察表5

番号	取上げ年	残存部量	器種	部位	色①	色②	色③	色④	胎土	鉄	溝	その他の	総合
77	726	1/1-1/4kg 10kg±3kg	須恵器 變形土器	口縁部	N4/0	2SY5/1	10Y7/1	-	微砂粒を若干含む 微量含む	④⑤外	④回転ナメ ⑤回転ナメ	良好	781
78	791	破片	須恵器 變形土器	腹部	2.5RY7/6 2.5RY5/3	7.5RY8/6	7.5RY7/6 2.5Y6/1	-	微砂粒を若干含む 粗砂粒を若干含む	④⑤外	④回転ナメ、青ガイ波文 ⑤回転ナメ、鳥子目多タケリのちナメ	不良 残さず干渉	786,789, 790,793
79	134	破片	須恵器 變形土器	口縁部	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6	-	細砂粒を若干含む 平凸面、圓印を含む 凸起、細粒を若干含む	④⑤外	④回転ナメ ⑤回転ナメ	不良	
80	244	破片	須恵器 變形土器	腹部	N5/0	N5/0	N6/0	-	微砂粒を若干含む		④回転ナメ、青ガイ波文 ⑤回転ナメ、鳥子目干渉	良好 残さず干渉	533 一枚
81	740	1/2塊状 11.1kg	須恵器 變形土器	底部	2.5RY5/2	7.5RY7/4	7.5RY7/4 2.5Y6/1	2SY5/2	粗砂粒を若干含む 微量含む	④外	④回転ナメ ⑤回転ナメ ⑥回転ヘラケツリのちナメ	良好 反転	
82	348	裏片	須恵器 變形土器	口縁部	N4/0	N5/0	N5/0 N6/0	-	細砂粒を含む	④外	④回転ナメ ⑤回転ナメ	良好	139 6枚一枚
83	6個・一枚	破片	須恵器 變形土器	口縁部	N3/0	10RG3/1	N3/0 10RS/2	-	細砂粒を微量含む	④外	④ナメ ⑤ナメ	残さず干渉 良好	
84	6個・一枚	破片	須恵器 變形土器	口縁部	2.5RY4/2	10R4/1	10R4/1	-	粗砂粒を微量含む	④外	④回転ナメ ⑤回転ナメ	残さず干渉 良好	
85	290	1/4kg±3kg	須恵器 變形土器	口縁部	5R6/1	5R6/1	5R6/1	-	圓砂粒を若干含む	④外	④回転ナメのちナメ ⑤回転ナメのちナメ	良好	336,338
86	408	7.5Y1/1kg	須恵器 蓋	-	7.5Y6/1	2.5Y7/1 2.5Y6/1	5Y5/1	-	細砂粒を微量含む	④外	④回転ナメ、擦痕あり ⑤回転ナメ、回転ヘラケツリのちナメ	良好、内面丸孔に擦痕あり (左)について(左)の蓋 (右)と考えられる(左山田教示)	
87	220	1/1-1/4kg	須恵器 環	底部	7.5Y6/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1	細砂粒を若干含む	④外	④ナメ ⑤回転ナメ ⑥回転ナメ	蓋部分に有 回旋使用	
88	240	破片	須恵器 蓋	口縁部	5Y7/1	5Y7/1 5Y6/1	5Y7/1	-	砂粒を若干含む 粗砂粒を若干含む		④回転ナメ ⑤回転ナメ		
89	180	4/5塊状 15.9cm 高3.7cm	土器 器蓋	-	5YR6/6	5YR6/6	5YR7/4	-	粗砂粒を含む 微砂粒を含む	④外 ⑤外	④回転ナメ ⑤回転ヘラケツリのち ナメ (ア)ナメ(ア)としたり	良好	179
90	258	7.5Y1/1kg 1/4kg±3kg	土器 器蓋	-	2.5YR6/6 7.5YR7/6	7.5YR7/6	10YR7/3	-	粗砂粒を含む 微量含む	④外 ⑤外	④回転ナメ ⑤回転ナメ、回転ヘラ ケツリ (ア)回転ナメ	良好、ロクロ半轉 凹形、整地地の 間に以降が焼 成直後は2か 月位	225 235 359
91	653	7.5Y1/1kg	土器 器蓋	-	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6 5YR8/1	-	粗砂粒を含む	④外	④ミガキ ⑤回転ヘラケツリのち ナメ (ア)回転のナメ	良好、 ミガキを多用 している	
92	435	4/5塊状 13.7cm 高3.2cm	土器 器环	-	5YR7/6	5YR7/6	5YR7/6	5YR7/6	粗砂粒を若干含む 微量含む	④外 ⑤外	④山田アメ ⑤須恵器ナメ (左山田アメ) ややむし 在山田回転ヘラケツリのち ナメ(ア)回転ヘラ ケツリ	焼成良好、反 転 台見込み 配号あり	560,381 362,504, 742
93	483	1/1-1/4kg 10.9cm	土器 器环	底部	5YR6/6 5YR7/6	5YR6/6 5YR7/6	5YR6/6 5YR7/6	5YR6/6 5YR7/6	細砂粒を若干含む 平凸面、圓印を含む 凸起、細粒を若干含む	④外 ⑤外	④回転ナメ ⑤回転ヘラケツリのち ミガキ (ア)回転ヘラ ケツリのナメ	良好	532
94	181	破片	土器 器环	口縁部 ~底部	7.5YR7/4	7.5YR7/4	7.5YR7/4 2.5Y4/1	7.5YR7/4	微砂粒を若干含む	④外 ⑤外	④回転ナメ ⑤ナメ ⑥回転ナメ	良好	
95	842	破片	土器 器环	口縁部 ~底部	2.5YR6/6 2.5YR4/2	5YR7/6 5YR8/1	5YR7/3	5YR7/6	粗砂粒を若干含む	④外 ⑤外	④回転ナメ ⑤回転ナメ ⑥山田回転マツツ ⑦山田ナメ	良好	

◎白色地、◎黒地質、◎カセン石、◎セキム、良好一過良好

遺物観察表 6

図番	東北DN	残存法量	器種	部位	色 ①	色 ②	色 ③	胎土粒	混同付	調整	その他	総合	
96	646	1/2残存 Ø10cm Ø1.1cm	土師器皿	- -	2.5YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR6/6	④⑤⑥外 2.5YR6/6	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥回転ヘラケズリのち ナデ	良好		
97	877	1/2残存 Ø9.3cm Ø7.7cm	土師器皿 (灯明里)	-	5YR7/4 5YR3/1	7.5YR6/3 7.5YR4/1	7.5YR6/2	④ 5YR7/4 5YR6/2	④ 7.5YR6/6	④回転ナデ。カ…ポン 付 ⑤回転ナデ ⑥回転ヘラケズリのち ナデ	良好		
98	69	一枚	破片	土師器皿	口縁部	5YR7/6	5YR7/6	5YR7/6	④ 5YR7/6	④ 7.5YR6/6	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥ナデ	良好	
99	864	○-○ 1/2残存	土師器皿	-	2.5YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR6/6	④⑤⑥外 2.5YR6/6	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥ナデ	良好	板張	
100	871	破片	土師器皿	口縁部 -底部	2.5YR6/6	5YR7/6	5YR7/6	④ 2.5YR6/6	④ 7.5YR6/6	④ 7.5YR6/6	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥回転ナデ	良好	
101	69	一枚	破片	土師器皿	口縁部 -底部	5YR7/6	5YR7/6	5YR7/6	④ 5Y7/6	④ 7.5YR6/6	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥ナデ	良好	
102	845	△レバーレ	焼形土器	口縁部	5YR5/3 5R3/1	5YH5/3 5R3/1	2.5YR5/3	-	④ 7.5YR6/6	④工具によるヨコナデ ⑤ナデ、ケズリ ⑥工具によるナデのち ナデ(△)ナデ	焼き若干ギモン 良好		
103	838	破片	焼形土器	口縁部	2.5YR6/4 7.5YR7/4	7.5YR6/4 5YR6/4	7.5YR6/1 5YR7/6	-	④ 7.5YR6/6	④ユビサエのチナデ、 タヌキ ⑤ナデ	焼き若干ギモン 良好	T18.719	
104	291	破片	焼形土器	口縁部	5YR7/4	10YR4/1 7.5YR7/4	5YR7/4 7.5Y3/1	-	④ 7.5YR6/6	④ヨコナデ、ケズリ ⑤ヨコナデ、ナデ	焼き若干ギモン 良好		
105	675	破片	焼形土器	口縁部	5YR6/4	7.5YR6/4	7.5YR4/1	-	④ 7.5YR6/6	④ナデ、ケズリ ⑤ナデ	焼き若干ギモン 良好		
106	331	破片	焼形土器	口縁部	5YR7/6	5YR7/4 5YR5/2	5YR7/6 N3/6	-	④ 7.5YR6/6	④ナデ、ケズリ ⑤ナデ	焼きギモン 良好		
107	198	破片	焼形土器	口縁部	10YR6/3	10YR7/2	2.5Y4/1	-	④ 7.5YR6/6	④ナデ、ハメツ ⑤ナデ、ケズリ	焼き若干ギモン 良好		
108	476	破片	焼形土器	口縁部	2.5YR5/4 10YR6/4 N3/6	10YR6/4 2.5YR5/2 N3/6	2.5YR5/2 10YR4/1	-	④ 7.5YR6/6	④ナデ、ケズリ ⑤ナデ	焼きギモン 良好		
109	505	破片	焼形土器	口縁部	5YR5/4	5YR5/4	5YR5/4	-	④ 7.5YR6/6	④ナデやヤマメツ、ケ ズリ ⑤ナデやヤマメツ	焼き若干ギモン 良好		
110	790	破片	焼形土器	口縁部	2.5YR6/6	2.5YR6/2 2.5YR5/2	10YR4/1	-	④ 7.5YR6/6	④ナデ ⑤ナデ	焼きギモン 良好		
111	251	破片	土師器皿	口縁部	2.5YR6/3	7.5YR6/1 N3/6	5YR7/2	-	④ 7.5YR6/6	④ナデ ⑤ヨコナデ	焼き若干ギモン 良好	6号一枚	
112	517	破片	焼形土器	口縁部	2.5YR6/4	2.5YR5/2	2.5YR6/2	-	④ 7.5YR6/6	④ナデ、やマメツ、ケ ズリ ⑤ナデ、やマメツ	焼きギモン 良好		
113	756	破片	焼形土器	口縁部	10R5/6 7.5YR6/4	10R5/6 7.5YR6/4	5YR7/6 5YR4/1	-	④ 7.5YR6/6	④ナデ ⑤ナデ ⑥ヨコナデ	焼き若干ギモン 良好		
114	521	破片	焼形土器	口縁部	2.5YR6/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6	-	④ 7.5YR6/6	④ナデ ⑤ナデ	焼きギモン 良好		

○白色粒、◎黑色粒、△カクシ粒、□セネスイ、▲好・一物改良

遺物観察表7

図番	取上げNo.	残存状量	器種	部位	色○	色△	色□	色○	釉土粒	裏附	溝	隔壁	その他	接合
115	294	破片	變形土器	口縁部	10YR5/6	2.5YR5/4	2.5YR5/4	-	細砂粒を含む 変形校を若干含む	④⑤⑥外 ④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥回転ヘラケズリのち ナデ	粗さ不明 良好			
116	205	破片	變形土器	口縁部	SYR7/6	10YR7/3	7.5YR8/3	-	細砂粒を含む 砂粒を若干含む	④⑤⑥外 ④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥回転ヘラケズリのち ナデ	粗さギモン 良好			
117	352	破片	變形土器	口縁部	SYR7/6	SYR7/6	SYR6/2	-	細砂粒を含む 砂粒を若干含む	④⑤⑥外 ④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥ナデ	粗さ好	642		
118	83	破片	變形土器	口縁部	SYR6/6	SYR7/4	10YR7/3	-	細砂粒を含む	④⑤外 ④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥ナデ	粗さ若干ギモン 良好			
119	614	破片	變形土器	口縁部	SYR7/4	SYR6/6	SYR6/6	-	細砂粒を含む 砂粒を若干含む	④⑤⑥外 ④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥回転ナデ	粗さギモン 良好			
120	409	破片	變形土器	口縁部	SYR6/4	2.5YR5/2	2.5YR6/4	7.5YR5/1	-	細砂粒を含む	④⑤外 ④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥ナデ	粗さギモン 良好		
121	816	破片	土母器	口縁部	7.5YR8/3	7.5YR8/3	7.5YR8/3	-	砂粒を含む 砂粒を若干含む 陶性 半干土	④外 ④工具によるヨコナデ ⑤ヘラケズリ ⑥工具によるナデのち ナデ	粗さギモン 良好			
122	658	破片	變形土器	口縁部	10R4/4	2.5YR5/3	10R5/4	-	砂粒を含む 細砂粒を含む	④⑤外 ④ミガキ ⑤ナデ		660		
123	191	破片	變形土器	頭部	2.5YR6/6	SYR7/4	7.5YR8/4	-	細砂粒を多く含む	④外 ④ナデ、ケズリ ⑤工具によるナデのち ナデ	粗さギモン 良好			
124	730	破片	變形土器	頭部	SYR7/4	7.5YR7/4	10YR7/2	-	細砂粒を含む 變形校を含む	④外 ④ナデ、ケズリ ⑤ナデ	粗さギモン 良好			
125	443	破片	變形土器	頭部～ 腹部	2.5YR5/3	SYR6/6	SYR11/1	7.5YR6/3	-	細砂粒を含む 變形校を含む	④ナデ、ケズリ ⑤ハゲメのちナデ、ナ デ	粗さギモン 良好		
126	726	破片	變形土器	腹部	10R5/2	SYR5/4	SD11.7/1	SYR4/1	-	砂粒を若干含む 細砂粒を含む	④⑤外 ④ナデ、ケズリ ⑤ナデ	粗さギモン 良好		
127	一枚	6.4cm 16.7cm 1.5cm 84g							-					
128	T30	12.4cm 5.3cm 1.7cm 60g	畫平打乳石斧						-		負岩質			
129	288	5.6cm 4.1cm 3.7cm 78g	鐵 石						-	砂岩				
130	一枚	6.1cm 4.2cm 1.8cm 10g	鉛石製加工品						-	鉛石				
131	681	7.3cm 5.5cm 6.2cm 300g	圓 石						-	安山岩				
132		7.4cm 5.1cm 3.2cm 200g	圓 石						-	安山岩				
133	685	10.3cm 9.8cm 8.2cm 878g	圓 石						-	安山岩				

④白色系、⑤黒色系、⑥カセンジ、⑦セキエイ、丸括弧は直角

遺物観察表 8

回番	取上IDNo.	残存部数	器種	部位	色 ①	色 ②	色 ③	色 ④	胎 土 粒	表面	調 整	そ の 他	接合
134		◎14.8cm ◎10.6cm ◎0.4cm	鉄 製 品		-	-	-	-	-	-	◎ユビオサエのちナデ ◎ナデ ◎ヨナデのちキザ -	焼きギモン 良好	
135	168	破片	變形土器	口縁部	5YR6/6 5YR4/3	2.5YR6/6	5YR6/6	-	細砂粒を含む 粗砂粒を含む	◎◎外 月	◎ナデ ◎ヨナデ ◎ヨコナデのちキザ -	焼きギモン 良好	
136	65	破片	變形土器	口縁部	2.5YR6/8 7.5YR5/3	2.5YR6/6	2.5YR6/6 7.5Y4/1	-	細砂粒を含む 粗砂粒を含む	◎◎外 月	◎ナデ ◎ヨナデ ◎ヨコナデのちキザ -	焼きギモン 良好	
137	30	破片	變形土器	口縁部	2.5YR6/8 5YR6/4	5YR6/6	10YR7/3 7.5Y4/1	-	細砂粒を含む 粗砂粒を含む	◎◎◎外 月	◎ナデ ◎ヨナデ ◎ヨコナデのちキザ -	焼きギモン 良好	
138	9層・一般	破片	變形土器	口縁部	7.5YR6/4	5YR6/4	7.5YR6/4	-	細砂粒を若干含む	◎◎外	◎ナデ ◎ヨナデ ◎ヨコナデ	焼きギモン 良好	
139	9層・一般	破片	變形土器	口縁部	7.5YR8/4	2.5YR6/6	7.5YR8/4	-	細砂粒を含む	◎◎◎外 月	◎ナデ ◎ヤメツ ◎ヨコナデ	焼き干ぎモン 良好	
140	9層・一般	破片	變形土器	口縁部	5YR7/6 10YR2/1	10YR2/1 10YR5/2	5YR7/6 10YR2/1	-	細砂粒を若干含む	◎◎◎外 月	◎ヨコナデ ◎ヨコナデ ◎ヨコナデ	焼き不明	
141	9層・一般	破片	變形土器	口縁部	7.5YR6/4	7.5YR6/4	7.5YR7/4	-	細砂粒を含む	◎◎◎外	◎ナデ ◎ナデややマメツ ◎ヨコナデ	焼き干ぎモン 良好	
142	19	破片	變形土器	口縁部	2.5YR7/8	7.5YR6/6 7.5YR5/3	7.5YR6/3	-	細砂粒を多く含む	◎◎◎外	◎ナデ ◎ヨコナデ	焼きギモン 良好	
143	9層・一般	破片	變形土器	口縁部	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6	-	細砂粒を含む	◎◎外	◎マメツ ◎ヨコナデ	焼きギモン 良好	
144	6	破片	變形土器	口縁部	2.5YR6/6 7.5YR4/3	7.5YR4/2 5YR7/2	5YR7/8	-	細砂粒を含む	◎◎◎外 月	◎ナデ ◎ガキ ◎ヨコナデ	焼きギモン 良好	
145	9層・一般	破片	變形土器	口縁部	2.5YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR8/6	-	細砂粒を含む	◎◎◎外	◎ナデ ◎ナデ ◎ヨコナデ	焼きギモン 良好	
146	9層・一般	破片	變形土器	口縁部	7.5YR7/4 5YR4/3	7.5YR7/4	7.5YR7/4	-	細砂粒を含む	◎◎◎外	◎ナデ ◎ナデ ◎ヨコナデ	焼き干ぎモン ハケノリ等/△	
147	9層・一般	破片	變形土器	口縁部	5YR7/6	5YR7/6	10YR7/3	-	細砂粒を含む	◎◎◎外	◎ナデややマメツ ◎ナデややマメツ ◎ナデややマメツ	焼き干ぎモン	
148	10層・一般	破片	變形土器	口縁部	2.5YR7/8 5YR4/3	5YR6/6	5YR6/6 2.5YR7/8	-	細砂粒を含む	◎◎◎外 月	◎ナデ ◎ナメツ ◎ヨコナデ	焼き干ぎモン 良好	
149	10層・一般	1/6-1/7残存	變形土器	口縁部	2.5YR7/8 5YR3/2	2.5YR6/6	7.5YR7/3	-	細砂粒を含む	◎◎◎外 月	◎ナデ ◎ナメツ ◎ヨコナデ	ハケノリ等/△ 良好	
150	948	破片	變形土器	口縁部	5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR8/4	-	細砂粒を含む 粗砂粒を含む	◎◎◎外 月	◎ナデ ◎ナデ ◎ヨコナデのちキザ -	焼きギモン 良好	
151	12層・一般	破片	變形土器	口縁部	2.5YR5/6	2.5YR3/1	2.5GY2/1	-	細砂粒を若干含む	◎◎外	◎ナデ マメツ ◎ハメツ ◎ヨコナデのちキザ -	焼き若干ギモン 良好	
152	925	破片	變形土器 (休生時代)	口縁部	2.5YR6/8 5YR5/6	2.5YR6/8 7.5YR7/4	5YR7/6	-	砂粒を多く含む 細砂粒を多く含む	◎◎◎外 月	◎ナデ ◎ナデ ◎ヨコナデ	焼きギモン 良好	

◎白色粒、◎黒色粒、◎カセン粒、◎セキム、△良好、△地底良好

遺物観察表 9

図番	取上げNo.	保存法	器種	部位	色 ①	色 ②	色 ③	色 ④	地 材	剖面	測 定	その他の	総 合		
153	928	破片	複形土器 (弥生時代)	口縁部	SYR7/6	SYR7/6	SYR7/6	-	赤褐色を帯び た土器で、細い斜 めの縦溝を含む	④⑤⑥	⑨ナデ ⑩ナデ ⑪ヨコナデ	絞きギン 良好			
154	929	破片	複形土器or 埴形土器	腹部肉 帯部	SYR7/6	SYR6/1	7SYR7/4	7SYR5/2	-	縦溝を含む	④⑤⑥	⑨ナデ ⑩ナデ 工具によるナ デ ⑪ヨコナデのちキザミ	絞き上下不明 良好		
155	930・一枚	破片	複形土器	腹部肉 帯部	SYR4/2	SYR7/6	2SYR5/2	N5/0	10YR2/1	-	縦溝を含む	④⑤⑥	⑨ナデ ⑩ナデ ハケメ ⑪ヨコナデのちキザミ	絞き不明 ハケメ/ia 良好	
156	21	破片	複形土器	突唇部	SYR7/8	7SYR6/2	SYR7/6	7SYR7/4	-	縦溝を多く含む 微細粒を多く含む	④⑤⑥	⑨ナデ ⑩ナデ ⑪ナデ ⑫ヨコナデのちキザミ	絞きがモソ 良好		
157	547	破片	複形土器	突唇部	2SYR6/4	2SYR5/2	SYR6/6	2SY2/1	7SYR5/1	-	細砂粒を 含む 微細粒を 含む	④⑤外	⑨ナデ ⑩ナデ ⑪ヨコナデのちキザミ	絞きがモソ 良好	
158	8巻・一枚	破片	複形土器	口縁部	7SYR7/4	7SYR5/1	7SYR7/3	7SYR7/3	-	細砂粒を 含む	④⑤⑥	⑨ナデ ⑩ナデ ⑪ヨコナデ ⑫ヨコナデ	絞き若干ギモ 良好		
159	21	破片	複形土器	突唇部	2SYR5/2	SYR6/4	SYR4/2	SYR7/4	SY3/1	-	細砂粒を 多く含む 微細粒を 多く含む	④⑤⑥	⑨ナデ ⑩ナデ ⑪ヨコナデ	良好	33
160	28	破片	複形土器	突唇部	SYR6/4	2SYR7/6	2SYR6/3	7SYR5/3	7SYR5/4	-	細砂粒を 多く含む 微細粒を 多く含む	④⑤	⑨ナデ ⑩ナデ ⑪ヨコナデ	良好	
161	26	破片	複形土器	突唇部	2SYR7/8	SYR6/6	SYR6/3	2SYR7/8	SYR6/6	-	細砂粒を 多く含む 微細粒を 多く含む	④⑤⑥	⑨ナデ ⑩ナデ ⑪ヨコナデ	良好	29
162	一般	⑩1/1残存 ⑪6.5cm	複形土器	底部	2SYR5/4	2SYR8/4	10YR7/3	2SYR5/4	⑫P 5YR6/3	砂粒を若 干含む 細砂粒を 含む	④⑤⑥	⑨ナデ 工具によるナデのち ナデ 工具によるナデの ちナデ	良好		
163	29	破片 ⑩1/2 ⑪12.8cm	複形土器	底部	2SYR6/6	10R4/2	5YR6/6	2SYR4/2	⑫P 7SYR7/4 7SYR3/1	細砂粒を 含む	④⑤⑥	⑨ナデ 工具によるナデのち ナデ ハケメのちナデ 工具によるナデの ちナデ	良好		
164	41	⑩1/1 ⑪7.5cm	複形土器 (弥生時代)	底部	2SYR7/6	SYR7/3	2SYR7/6	⑫P 2SYR7/6	細砂粒を 多く含む 微細粒を 多く含む	④⑤⑥	⑨ナデ 工具によるナデのち ナデ 工具によるナデの ちナデ 工具によるナデの ちナデ	良好			
165	954	⑩1/1 ⑪6.5cm	複形土器 (弥生時代)	底部	2SYR6/8	2SYR7/6	2SYR7/6	⑫P 7SYR5/2	2SYR6/8	細砂粒を 多く含む 微細粒を 多く含む	④⑤⑥	⑨ナデ 工具によるナデのち ナデ 工具によるナデのち ナデ 工具によるナデの ちナデ	良好		
166	741	破片	複形土器	底部	2SYR7/4	2SYR7/6	2SYR7/6	7SYR5/3	-	砂粒を若干 含む 微細粒を 含む	④⑤⑥	⑨ナデ 工具によるナデのち ナデ ナデ	良好		
167	9巻・一枚	⑩1/3-1/4残存	複形土器or 埴形土器	底部	2SYR6/6	SY5/1	10YR7/2	2SYR6/6	⑫P 10YR7/2	細砂粒を 多く含む	④⑤⑥	⑨ナデ 工具によるナデのち ナデ 工具によるナデのち ナデ	良好		
168	9巻・一枚	⑩1/3-1/4残存	埴形土器	底部	7SYR7/6	-	10YR6/3	⑫P SYR6/3	細砂粒を 多く含む	④⑤⑥	⑨ナデ 工具によるナデのち ナデ 無調整				
169	10巻・一枚	⑩1/1残存 ⑪5.1cm	複形土器	底部	2SYR6/6	2SYR6/8	10R6/6	⑫P 10YR5/8	細砂粒を 若干含む	④⑤外	⑨ナデ ⑩ナデ ⑪ナデ	良好			
170	12巻・一枚	破片	複形土器	底部	2SYR7/8	2SYR7/8	2SYR7/8	⑫P 2SYR7/8	砂粒を含 む 細砂粒を 含む	④⑤⑥	⑨ナデ ⑩マツメ ⑪マツメ	良好			
171	126	破片	複形土器	口縁部 ~突唇 部	10R5/6	SYT6/4	10R5/6	10R5/6	-	砂粒を若干 含む 微細粒を 含む	④⑤外	⑨ナデ 工具によるナデのち ナデ			

⑩白色粘、⑪黑色粘、⑫カタモン石、⑬セキエイ、良好=複数良好

遺物觀察表10

回番	取上げNo	残存法量	基 種	部 位	色 ④	色 ⑤	色 ⑥	色 ⑦	粒 状	茎 叶	調 整	そ の 他	採 取
172	514	葉片	葉 形 手 器	口縁部	2.5YR6/6 2.5YR6/6	2.5YR6/4 2.5YR6/4	2.5YR6/6 2.5YR6/4	-	砂紋を若干含む 細胞粒を含む 細胞粒を含む	④⑤⑥⑦ 外 内	ナデ ナデ ヨコナデ ヨコナデ	良好	
173	897	6d1/1残存 @3.0cm	葉 形 手 器	底部	7.5YR8/3 10YR4/1	7.5YR4/1	7.5YR4/1	-	砂紋を若干含む 細胞粒を含む	④⑤⑥⑦ 外 内	ユビオサシのちナデ ナメツ 無葉茎	良好 SA-2種土里土	
174	894	Q11/2残存 @3.0cm	葉 形 手 器	口縁部	7.5YR8/3	5Y6/1	N4/0	-	砂紋を若干含む 細胞粒を含む	④⑤⑥⑦ 外 内	ややマメツ ややマメツ	SA-2種土里土	
175	86	葉片	葉 形 手 器	口縁部	5YR6/3	2.5YR5/3 10R6/6	10R6/6	-	砂紋を若干含む 細胞粒を含む 細胞粒を含む	④⑤⑥⑦ 外 内	ナデ/ハクタ ナデ	良好	
176	640	葉片	葉 形 手 器 (皮川式)	頭部	7.5YR7/4	5YR6/6	5YR7/3	-	砂紋を若干含む 細胞粒を含む	④⑤⑥⑦ 外 内	ユビオサシのちナデ 工具によるナデのち ナデ	焼きギン 良好	
177	9番・一枚	葉片	葉 形 手 器	口縁部	10YR7/2 5YR8/4	7.5YR7/3	2.5YR5/1 7.5YR7/2	-	微細粒を若干含む	④⑤ 外	ナデ ナデ	焼きギン	
178	9番・一枚	葉片	葉 形 手 器	口縁部	7.5YR7/4 7.5YR3/1	7.5YR6/3	7.5YR7/3	-	粗粒を若干含む	④⑤	ナデ ナデ	焼き若干ギン	
179	9第・一枚	6d1/1残存 @2.3cm	葉 形 手 器	底部	10YR7/4 2.5YR4/1	7.5YR6/4	2.5YR5/1 10YR4/1	④	砂紋を若干含む 細胞粒を含む	④⑤⑥⑦ 外 内	ナデ ナデ ナデ	良好	
180	887	6d1/1残存 @3.1cm	葉 形 手 器	底部	7.5YR8/4	2.5YR7/8	5YR8/4	④	砂紋を含む	④⑤ 外	ケツリ 工具によるナデのち ナデ 工具によるナデのち ナデ	良好 SA-2種土里土	
181	939	穂片	葉 形 手 器	口縁部	7.5YR7/6	7.5YR7/6 5YR7/6	7.5YR6/4	-	粗粒を多く含む 細胞粒を多く含む	④⑤⑥⑦ 外 内	ナデ 工具によるナデのち ナデ 工具によるナデのち ナデ ヨコナデ		
182	12番・一枚	穂片	葉 形 手 器	口縁部	7.5YR8/3	10YR8/3	10YR8/3 10Y5/1	-	粗粒を若干含む	④⑤⑥⑦ 外 内	ナデ ナデ ナデ	焼き若干ギン 良好	
183	944	穂片	葉 形 手 器	突起部	7.5YR6/4 5YR4/2	5YR6/4	5YR6/4	-	粗粒を多く含む 細胞粒を多く含む	④⑤⑥⑦ 外 内	ナデ ナデ ヨコナデのちキザシ	焼きギン 良好	
184	950	穂片	葉 形 手 器	突起部	5YR7/6	7.5YR6/8 10YR6/1	10YR6/1 5YR7/6	-	細胞粒を多く含む 細胞粒を多く含む	④⑤⑥⑦ 外 内	ユビオサシのちナデ ハクタのちナデ ヨコナデのちキザシ	焼きギン 良好	
185	924	穂片	葉 形 手 器 (張生時代)	突起部	7.5YR8/4 N3/0	5YR7/6	10YH5/1	-	粗粒を多く含む 細胞粒を多く含む	④⑤⑥⑦ 外 内	ナデ ナデ ナデ ヨコナデ	焼きギン 良好	
186	591	穂片	高环形土器	脚台部	7.5YR6/3	7.5Y6/3	10G3/1	④	粗粒を若干含む 圓錐粒を若干含む	④⑤⑥⑦ 外 内	ナデ 工具によるナデのち ナデ	反転 良好	
187	85	穂片	高环形土器	脚台部	5YR7/6	5YR7/6	N3/0	④	砂粒を含む	④⑤ 外	ナデ 工具によるナデのち ナデ 工具によるナデのち ナデ	良好	
188	922	Q11/2残存 @3.1cm	高环形土器	口縁部 -底部	2.5YR8/6 5YR7/6	2.5YR6/8 5YR7/6	2.5YR6/6 5YR7/6	④	粗粒を含む 圓錐粒を含む	④⑤ 外	ミガタ マメツ マメツ マメツ	全体にマメツ 美しい 反転	865
189	10番・一枚	Q11/1残存 @1.6cm	高环形土器	口縁部	10R6/6	10R6/6	10R6/6	-	粗粒を若干含む 細胞粒を含む	④⑤⑥⑦ 外 内	マメツ マメツ		
190	1	Q8.8cm @2.4cm @5.6cm @12.7cm	無葉形土器	尖形	2.5YR6/6 2.5YR7/3	2.5YR6/6 2.5Y7/3	2.5YR7/4	④	砂紋を若干含む 細胞粒を含む	④⑤⑥⑦ 外 内	ナデ ナデ マメツ美しい ナデ マメツ美しい ナデ マメツ美しい	良好	

◎白色粒、◎黑色粒、◎カクセン石、◎セキエイ、良好—極良

遺物観察表11

図番	取上げNo	残存状況	器種	部位	色 ①	色 ②	色 ③	色 ④	胎土	鉢内	調 整	その他の接合
191	854	①1周部 底付20mm ②1周部 底付 ③1周部 底付 ④1周部 底付	棒形土器	-	2.5YR6/2 N3/0	10R6/4	2.5YR7/3	5YR6/3	細粒粘土を含む	④⑤⑥⑦外	①ナデ ②ナデ、工具によるナ ドリットア ③ナデ ④ナデ	
192	405	①1周部 底付	棒形土器	底部	7.5YR7/1 M3/0	7.5YR6/3	7.5YR6/3	7.5YR6/3	細粒粘土を含む	④⑤⑥外	①工具によるナデのち ナデ ②ユビオサエのちナデ ③ナデ	良好
193	849	葉片 ①3/4 ②3.1cm	棒形土器	底部	10YR4/2 5YR6/6	10YR5/3	10YR5/3	10YR6/2	砂粒、細 砂質、微 砂粒を含む	④⑤⑥外	①ナデ ②ナデ ③ナデ ④ナデ ⑤ナデ ⑥ユビオサエのちナデ	
194	900	①-② 1/2残存 ③2.7cm	棒形土器 (コップ形)	底～ 腹部	10YR4/1 5YR6/1	2.5YR7/4	10R5/2	2.5YR6/4	砂粒を若 干含む 細粒粘土を 若干含む	④⑤⑥外	①ナデ ②工具によるナデのち ナデ ③ナデ ④工具によるナデのち ナデ	反転

①白色、②黑色、③青色、④黄色、⑤モカベイ、⑥モカベイ、良好～良成良好